

# 事務事業及び予算の執行実績

(令和3年度分「一部、令和4年度分を含む」)

静岡県立沼津聴覚特別支援学校

## 目 次

事務事業の概要	1
事務執行の根拠法令調	20
学校施設の概要	21
在籍生徒調	23
入学志願者及び入学者数調	27
卒業生の動向調	28
生徒の状況	29
預金調	31
郵券等受払調	31
材料品受払調	32
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	33
委託料に関する調	34
負担金支出調	38
建築工事調	40
公有財産調	42
借地借家等調	44
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	45
行政財産貸付・使用許可調	46
主要備品調	47
生産物受払調	48
職員調	67
職員の年齢調	70
健康管理	71

## 事務事業の概要

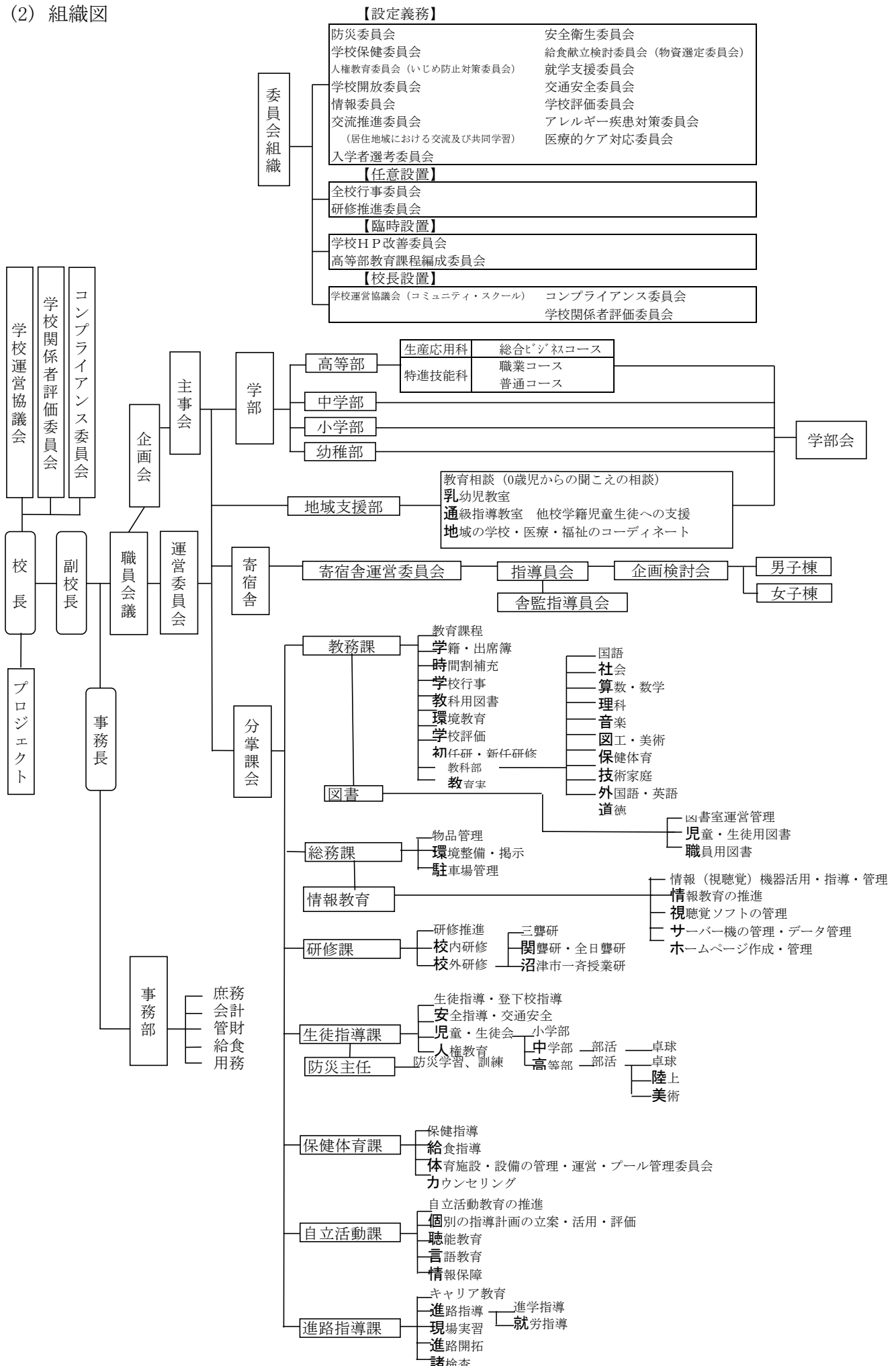
### 1 概況

#### (1) 学校の沿革

昭和24年	4月 1日	静岡県立沼津聾学校設立認可・創立
	4月15日	駿東教育事務所において執務開始
	5月10日	入学式挙行・開校記念日
	6月10日	開校式挙行
	7月22日	沼津市米山町536の5（現沼津盲学校）へ校舎建築着工
	12月17日	沼津市米山町536の5（現沼津盲学校）の新校舎に移転
昭和27年	3月31日	盲学校より分離移転のため、沼津市三枚橋八反庄565の1 （現沼津聴覚特別支援学校所在地） 3,404.72坪第1期盛土作業完了
	12月23日	沼津聾学校校舎新築工事着工
昭和28年	6月 1日	本館第1校舎完成
	6月 4日	盲学校・聾学校分離、新校舎に移転
昭和29年	1月 9日	沼津市岡宮開拓1659（現寄宿舎）へ寄宿舎新築着工
	4月	校章制定（霊峰富士の姿と沼津聾学校のN）
昭和30年	3月19日	小学部第1回卒業式挙行
昭和33年	3月20日	中学部第1回卒業式挙行
	3月29日	高等部理容科を理容師養成施設として県知事指定された。
	4月 1日	高等部理容科・木工科・洋裁科（洋裁紳士服）を開設
昭和35年	2月25日	高等部理容科に実地習練の理容所認可
	4月 1日	高等部洋服科を開設（洋裁科より分離）
昭和36年	1月24日	木工室完成
	3月18日	高等部第1回卒業式挙行
昭和37年	4月 1日	幼稚部設置認可・開設
昭和39年	12月11日	体育館完成
昭和41年	4月 1日	高等部洋裁科・洋服科を合併し、被服科を開設
昭和44年	4月 1日	幼稚部3歳児学級開設
昭和45年	4月 1日	幼稚部2歳児学級開設
	11月28日	校歌制定（井上靖作詞・平尾良威作曲）
	12月15日	高等部統合に伴い高等部寄宿舎新築工事着工（RC 4F）
昭和46年	4月 1日	県下聾学校高等部を沼津聾学校に統合（学年進行）、高等部に普通科 を、被服科に和裁コース並びに別科（2年）を新設
	8月20日	工芸実習棟工事着工
	8月31日	高等部寄宿舎[集団棟]（1,302.55㎡ RC 4F）完成
昭和47年	1月26日	文部省より養護・訓練について研究校の指定を受ける。（2ヵ年継続）
昭和48年	4月 1日	高等部木工科を産業工芸科と改称。別科を廃止し、生活技能科を新設 幼稚部2歳児学級認可
昭和49年	4月 1日	高等部に専攻科（理容1ヵ年修業）を新設
	11月29日	高等部・幼稚部校舎（2,202.55㎡ RC 4F）完成
昭和52年	12月28日	低学年部寄宿舎[個別棟]工事着工（RC 2F）
昭和53年	3月25日	低学年部寄宿舎[個別棟]（507㎡）完成
	8月18日	管理棟工事着工（RC 3F）
昭和54年	3月31日	管理棟第1期工事（1,062.48㎡）完成
昭和55年	3月31日	管理棟第2期工事（1,332.83㎡）完成
	11月14日	体育館補修工事完成
	11月16日	創立30周年並びに校舎落成記念式典挙行
昭和56年	8月21日	プール20m×4コース・小プール4.5m×6m・更衣室便所54.45㎡・ ポンプ室6.5㎡完成

昭和59年11月12日	住居表示変更により所在地表示変更 (学 校) 沼津市泉町 4番 1号 (寄宿舎) 沼津市泉町 3番29号
昭和63年 4月 1日	県教委より特殊教育「教育課程」について研究校の指定を受ける。 ( 2ヵ年継続)
平成 2年 3月31日	高等部の被服科を廃止
9月14日	給食室「木の教室」改装完成
平成 3年 3月31日	高等部の産業工芸科を廃止
4月 1日	高等部に生産応用科を新設
平成 4年 5月19日	文部省より社会の変化に対応した新しい学校運営等に関する調査研究 協力校の指定を受ける (3ヵ年継続)
平成 6年12月15日	沼津市公共下水道に接続
平成 8年 7月29日	平成7年度耐震診断結果により、平成9年度改修工事に向けて北校舎 及び寄宿舎集団指導棟の補強実施設計に着手
平成 9年 9月22日	北校舎耐震補強工事完成
10月 9日	寄宿舎集団指導棟耐震補強工事完成
平成10年 4月 1日	高等部の学科を改編し、生産応用科 (情報処理コース・理容コース) 及び特進技能科 (普通コース・生活技能コース) に改める。 また、高等部本科並びに専攻科の定員減 (9人→8人) を行う。 理容師法改正に伴い理容師養成施設として厚生大臣指定される。
9月14日	管理棟耐震補強工事完成
平成11年12月 4日	創立50周年記念式典挙行
平成13年 3月23日	老朽体育館改築事業により体育館及び便所棟完成
平成13年 4月 1日	通級指導教室開設
平成14年 4月 1日	松崎通級指導教室開設
平成15年10月15日	給食棟耐震工事完成
平成16年 4月 1日	中伊豆通級指導教室開設
平成17年 4月 1日	特進技能科の生活技能コースを職業基礎コースに改める。
平成17年 4月 1日	沼津盲学校寄宿舎休舎に伴い盲学校の生徒を受け入れる。
平成17年10月25日	産業工芸棟、遊戯棟耐震補強工事完成
平成20年 4月 1日	校名を静岡県立沼津聴覚特別支援学校に改める。
平成25年 4月 1日	高等部特進技能科職業基礎コースを職業コースに、生産応用科情報コー スを総合ビジネスコースに改める。
平成30年 3月31日	理容師養成施設の廃止を承認される。
平成30年 4月 1日	学則改正により高等部専攻科理容科を廃止する。 生産応用科の理容コースを廃止する。
令和元年 7月 1日	普通教室空調設備設置工事により普通教室25室空調設備を設置

(2) 組織図



## 2 目指す学校像

- ・安全教育や環境の整備を行い、命を守る安全・安心な学校
- ・一人一人の子どもの思いや教育的ニーズに応じながら「生きる力」を育てる学校
- ・地域との連携・協力を進めたり、聴覚障害教育のセンター的役割を果たしたりする学校
- ・教職員が自ら研鑽に励み、互いを尊重し、思いやりながら協働する学校

## 3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

### (1) 令和3年度の取組目標への評価及び成果と課題

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果(○)と課題(●)
ア	危機感や想像力を持ち、子どもの命と心を大切に する安全で安心できる 指導・支援を行う。	学校・寄宿舎における感染症防 止対策を徹底して実施できた。 教職員 AB 100%	100%	A	○毎日消毒の実施等、感染 防止対策が徹底できた。 引き続き緊張感をもって 対応したい。 ●児童生徒の心身の不調に より、個別対応が必要な 例が見られた。引き続き 保護者と連携して、担任 だけでなく、養護教諭、 SCなど多方面からアプ ローチし、学校体制で支 援する体制を整える必要 がある。 ○自己肯定感を高める教員 の働きかけは定着できて いる。
		個々の児童生徒に応じて心身の 不調に寄り添い、協力してケア を行った。教職員 AB 100%	98%		
	幼児児童生 徒の自己肯 定感を高め る。	自分の良さを知っている。 児童生徒 AB 90%	83%	B	
		子どもの良さや頑張りに目を向 け、称賛したり肯定的な対応を したりすることで学校生活に成 果が表れた。教職員 AB 100%	98%		
		友達と良さを認め合い、誰とど も仲良くすることができ、学校 が楽しい。 幼児保護者、児童生徒AB 100%	幼児保護者 100% 児童生徒		
	イ	聴覚障害児 教育の専門 性の向上を 図る。	校内外の研修により、聴覚障害 児教育の理解が進み、指導に活 かせた。教職員 AB 100%	97%	
指導において、手話をはじめと するメディア活用の力が向上し た。教職員 AB 100%			93%		
学習会、研修 計画実施 全体講演会 1回			計画どおり 実施		
関東聾学校教育研究会（音楽 科） 計画・開催			計画どおり 実施		
外部研修会（遠隔または書面を 含む）への参加 教職員一人1回以上			95%		
幼児児童生 徒の「主体性 を育む」ため の指導力を 高める。	授業が楽しい、授業がわかる。 幼児保護者 AB 100% 児童生徒 AB 100%	幼児保護者 100% 児童生徒	A	○学部の講師招聘を全体 研修に位置付けたこと で他学部の研修内容の 理解が進み、自分の指導 に生かすことができて いる。	
	学部研修を授業改善や児童生 徒理解に生かすことができた。 教職員 AB 100%	95%			

イ	幼稚園から高等部卒業までの15年間を見通したキャリア教育の視点に立った指導の充実。	敬語や挨拶がうまくできるようになった。 児童生徒 AB 90%		B	○進路指導について、高等部の「進路の手引き」を全校で共有できた。 ●今年度整備した「進路の手引き」を小学部から系統的な進路指導の手立てとして活用できるよう共通理解を深めたい。 →指導に生かすために学部ごとに内容を説明する。 ○リモート学習に向けてICT機器の使用が進んだ。 ○リモート学習のための環境整備が整った →来年度もより快適な環境整備を進める必要がある。(wi-fi環境、情報端末の整備、UDトークの活用など) ●環境改善のための予算の確保→県への要求継続
		聴き取りやメモの活用などの指導を意識的に取り入れ成果が見られた。教職員 AB 100%	93%		
		「進路指導の手引き」「職場実習の手引き」を活用し、学部や児童生徒に応じた進路指導ができた。 高等部学年、学級担任 AB 100% 小中高各学部主事 AB 100%	89%		
	ICT活用の推進。	ICT機器の活用に関する研修を行い、理解と活用が向上した。 教職員 AB 80%	97%	A	
	寄宿舎の生活の環境改善を行う。	環境が改善できた(された) 寄宿舎指導員 AB 100% 寄宿舎生 AB 100%	88%	B	
ウ	地域とのつながりを広げ、活用する。	学部、学年の授業や分掌等で外部の人材や地域資源の活用ができた。 教職員 AB 80%	95%	B	●コロナ禍で、地域資源の活用を制限せざるを得ないことが多かった。 →外部資源の活用は効果があるため、次年度も計画的に活用したい。 ○地域支援部を中心に、センター的役割を果たすことができた。
	通級指導や教育相談を通して地域のセンター的役割を推進する。	通級生の在籍校との連携・協力が進み通級生や同級生の成長や変化が見られた。 難聴理解授業実施校 100%	95%	B	
エ	学部を越えた協力の推進、業務や組織を効率化し協働意識の高い取組を行う。	各部署で総意や共通理解を経て、1～2カ月前には計画や案を作成し企画会や運営委員会に提案や起案をすることができた。 教職員 AB 100%	93%	B	●企画は安易な前年踏襲ではなく、その意義や内容を、カリキュラムマネジメントの視点でも見直していきたい。修正には時間がかかる場合がある。 ●学部会は企画会と学部の共通理解の場となるよう主事が運営できるようにしていきたい。
		企画会や学部、分掌からの情報が共有でき円滑で適切な運営ができた。 教職員 AB 90%	95%		
		職員間の雰囲気良く、仕事がしやすい。 教職員 AB 100%	86%		
	教職員としてコンプライアンスの意識を高める。	教職員としてコンプライアンスの意識が高まり、適切な言動をすることができた。 教職員 A 100%	100%	A	○年間を通して不祥事根絶の取り組みを進めることができた。

(2) 令和4年度の取組目標・達成方法・成果目標

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	社会のニーズに応える学校の魅力を発信する	学校全体で取り組む「魅力ある学校づくりプロジェクト」により、教職員自身が学校の魅力を再確認し、地域に対して具体的な魅力を積極的に発信し続ける	○学校の強み、魅力について理解し、説明できる教職員 100%
			○ホームページ等により、学校の魅力発信を行う 各ページ毎月更新100% ○学校の様子がわかると答える保護者 100%
イ	聴覚障害教育の専門性の向上を図り、その専門性に基づく効果的な「つなげる学び、広げる学び」による学力向上	・聴覚障害の専門性向上に資する研修会(自立活動、研究、進路、生徒指導、手話等)を計画的に実施し教職員一人一人の資質を向上させる	○各種専門研修において、いずれかの講師役を担うことができる教職員 70%(新任を除いた割合) ○自身の聴覚障害の専門性について、何がどう高まったか答えられる教職員 100% ○朝打ちでのワンポイント手話の実施を計画的に実施する ○自分の手話力が向上したと答える教員 100%
		・外部講師招聘による全体研修を実施する ・外部の各種専門研修会に参加しその成果について伝達講習を行う	○全学部での講師招聘研修会の実施 ○研修を自分の指導に生かせたと答える教職員 100% ○他学部の研修内容を理解している教職員 100% ○外部で参加した研修会の伝達講習実施 100%
		・カリキュラムマネジメントに基づく、つながる学びを実践する	○学年間、教科間でのカリキュラムの確認と、学びをつなげるための打ち合わせの実施 学期1回
		・障害特性に合わせたICT機器の活用など、「学びがわかる」授業を実施する	○ICT活用など児童生徒にわかるための支援を工夫したと答える教職員 100% ○授業が分かりやすいと答える生徒 100%
	社会自立に向けた、生活力や社会性を育てる教育の充実	・地域や専門家との連携協働(警察、消防、SC、ろう者等)した指導支援を行う	○地域や専門家と連携した授業等を計画的に実施した教職員 100%
		・学部間のつながりがある体系的なキャリア教育の実施	○卒業後の子どもの姿がイメージできると答える保護者 100%
・タイムマネジメントを踏まえた業務の見直しと、俯瞰的な視野での業務改善の推進		○時間外業務月 60時間以上の教職員 0% ○会議時間が短縮したと答える教職員 100%	
ウ	自己肯定感を高め、自らの命と	・児童生徒の不安や心の揺らぎ等に早期に気づき、組織とし	○SCなどの活用に効果があったと感じる教職員 100%



健康を守る、人権教育・安全教育を推進する	て対応する	○学校が信頼できると答える児童生徒 100%
	・さまざまな災害に対応した安全教育の実施	○地震や火災などの災害から自分の身を守る方法が理解できていると答える児童生徒 100%
	・新しい学校の生活様式に基づく、感染予防対策の実施	○感染防止対策を踏まえた行動がとれた児童生徒 100%
	・教職員・児童生徒が、互いを認め合い、尊重し合う心を大切にされた指導支援の実施	○自分や友達の良いところを知っていると答える児童生徒 100% ○子どもに思いやりの気持ちを育てる教育ができたと答える教職員 100% ○交流及び共同学習が自分にとってプラスになったと答える児童生徒 100%
聴覚障害教育における地域のセンター的役割を積極的に発揮する	・地域のニーズにこたえるセンター的機能を積極的に発揮する ・早期療育につなげる関係機関との連携を強化する	○各市町保健福祉部署との連携 100% ○聴覚支援センターとの連携支援の実施
		○通級指導をうけてよかったと答える通級保護者 100% ○通級指導の学びを自身の学習や生活に生かすことができたと答える通級生 100% ○学校への支援が効果的であったと答える通級在籍校 100%
		○教育相談、乳幼児教室での支援をうけてよかったと答える保護者 100%
		○学校等支援訪問の希望への対応 100% (通級、教育相談、乳幼児)

#### 4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和3年度	「学校の新しい生活様式」に沿った安全・安心な教育活動を行うと共に、カウンセラーや家庭と協力しながら人権や心のケアを大事にした指導や支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日消毒の実施等、感染防止対策が徹底できた。引き続き緊張感をもって対応したい。</li> <li>・児童生徒の心身の不調により、個別対応が必要な例が見られた。引き続き保護者と連携して、担任だけでなく、養護教諭、SCなど多方面からアプローチし、学校体制で支援する体制を整える必要がある。</li> <li>・自己肯定感を高める教員の働き掛けは定着できている。</li> </ul>

	「聴覚障害教育の手引き」「自立活動ハンドブック（沼豊本）」を使った研修や、手話やメディアに関する学習会、障害理解のための講演会を計画的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内での研修だけでなく資質向上に生かせる外部研修情報は随時職員に提供した。自主的に参加する教員も多かった。</li> <li>・新任者、若手教員の専門性向上のための研修体制を、より整備する必要がある。来年度は学校体制で専門性向上プロジェクトを立ち上げ専門性維持向上に努めていく。</li> </ul>
	ICT 活用の推進。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リモート学習に向けて I C T 機器の使用が進んだ。</li> <li>・リモート学習のための環境整備が整った。来年度もより快適な環境整備を進める必要がある。(wi-fi環境、情報端末の整備、UDトークの活用など)</li> </ul>
	幼稚部から高等部卒業までの 15 年間を見通したキャリア教育の視点に立った指導の充実。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導について、学校全体の「進路の手引き」を全校で共有できた。</li> <li>・今年度整備した「進路の手引き」を小学部から系統的な進路指導の手立てとして活用できるように共通理解を深めたい。</li> <li>・保護者会、参観会等で進路課長より卒業生の進学、就労状況を説明し、将来の姿をイメージしてもらえるようにした。</li> </ul>
	通級指導や教育相談を通して地域のセンター的役割を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通級生のいる学校で難聴理解授業を行ったり、訪問をしたりすることで地域の方に聴覚障害の理解を深めてもらう努力をした。病院や市町と連携し、乳幼児相談や教育相談を進める。</li> </ul>
	学部を越えた協力の推進、業務や組織を効率化し協働意識の高い取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画は安易な前年踏襲ではなく、その意義や内容を、カリキュラムマネジメントの視点でも見直していきたい。修正には時間がかかる場合がある。</li> <li>・学部会は企画会と学部の共通理解の場となるよう主事が運営できるようにしていきたい。</li> </ul>
令和4年度	授業改善や地域のニーズに応えるため「プロジェクト」を立ち上げ、教職員の専門性を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害教育とはなにか、本校で押さえておきたい専門性とは何かを、聴覚障害児教育の長い教職員が軸となり、話し合いを持ち教職員が分かりやすい形でまとめた。次年度は、このまとめを基に実践する。</li> </ul>
	HPを改善し、行事ごとに更新し、必要な情報が分かる形に改善する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を素早くHPで発信することにより、学校の様子が分かり、必要な情報を保護者が得たりすることができるようにした。次年度は、教職員誰もが、担当した行事等について、情報担当以外の教職員もHPを作成する。</li> </ul>
	聴覚障害教育の専門性の向上を図るための研修会の実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内校外の研修をとおして、授業にいかしたり、自身の専門性の向上につなげたりする機会にした。次年度は、研修した教職員のみならず、校内で共有することにより学校全体の知識になるように発信する機会を設定する。</li> </ul>

<p>地域や専門家との連携協働(警察、消防、S C、ろう者等)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や専門家と連携した授業等を計画的に実施したことにより、子どもたちの学びがより深い分かりやすい内容にする。また、地域の人に本校について分かってもらう場とする。</li> <li>・成人ろう者と交流することにより将来をイメージできた。警察や消防の方とも、聴覚障害を持った子どもへの安全に向けての配慮を確認できる場とする。</li> <li>・子どもたちも命を守るためにはどのようにしたらよいか、年齢に応じた理解が進むように実施した。</li> </ul>
<p>通級指導や教育相談を通して地域のセンター的役割を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して通級生のいる学校で難聴理解授業を行ったり、訪問をしたりすることで地域の方に聴覚障害の理解を深めてもらう努力をした。病院や市町と連携し、乳幼児相談や教育相談を進める。</li> </ul>
<p>学部を越えた協力の推進、業務や組織を効率化し協働意識の高い取組を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門教科について、学校全体で協力し、他学部の支援を行う体制をとったことにより、学部を超えた子どもの理解につながり、他学部の教職員と話をなど、学部間を超えた連携ができた。引き続き、業務改善につながる取り組みをする。</li> </ul>

5 教職員について

(1) 令和4年度末異動状況

(単位：人)

職名 区分	本務職員											臨時・会計年度任用職員							合計		
	教育職員								行政職員			本務計	教諭(任期付・臨時)	実習助手(臨時)	寄宿舎指導員(臨時)	非常勤講師(教育課程・看護)	非常勤嘱託員・非常勤労務職員	乳幼児発達支援指導員		臨時計	
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	栄養教諭	主任寄宿舎指導員	寄宿舎指導員	事務長	主査	主事										
転出者		1		5	1				1		1	9								9	
退職者				3			1					4	3	1	1	1		1		7	11
退職者 (再任用)				1								1									1
昇任者																					0
転入者			1	7	1				1	1		11									11
新規採用者				1								1	5	1	1		1	1	9		10
新任者 (再任用)				3				1				4									4
差引増減	0	△1	1	2	0	0	△1	1	0	1	△1	2	2	0	0	△1	1	0	2		4

(2) 現員数

(令和5年4月1日現在) (単位：人)

職名 区分	本務職員											臨時・会計年度任用職員								合計		
	教育職員							行政職員				本務計	教諭(任期付・臨時)	実習助手(臨時)	寄宿舎指導員(任期付・臨時)	非常勤講師(教育課程・看護)	非常勤嘱託員・非常勤労務職員	スクールカウンセラー	乳幼児発達支援指導員		臨時計	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	栄養教諭	主任寄宿舎指導員	寄宿舎指導員	小計	事務長	主査	主事											小計
男	1		11			2	1	15		1		1	16	1		2	2	3	1		9	25
女		1	24	1	1		3	30	1	1	1	3	33	4	1	3	2	2		1	13	46
計	1	1	36	1	1	2	4	45	1	2	1	4	49	5	1	5	4	5	1	1	22	71

(3) 健康管理について

学校全体で、つながり合い支え合ってチームで業務を行うことに努めている。学部主事を中心に「あいさつ＋一言」に心がけ、相談しやすい雰囲気づくり、教職員の小さな変化に早期に気づき皆で対応するよう努めた。

月に一度、副校長、養護教諭、保健主事、各部の代表（事務部、学部、寄宿舍）が集まり職員安全衛生委員会を実施し、毎回、下記の内容を確認し合うことで学校全体の把握・推進に努め、合わせて校長への意見具申を行った。

- ア 各部の所属職員の健康状態（心身の調子）及び対応
- イ 職場の安全・環境上で気付いたこと
- ウ 今月のヒヤリハット
- エ その他…生活習慣病等の検診の実施状況、職員健康講座の計画

また、学校経営計画書に「働き方改革」の項を設け、学校全体で業務の見直しや時間外勤務の短縮に努めた。これにより、時間外勤務 60 時間（月）を超える者は 0 であった。

以上により、病気（精神）を理由とした特休取得者・休職者は 0 であった。

(4) 教職員の研修について

<全体研修>

	令和 3 年度	令和 4 年度
研修 主題	「主体的な学びを求めて」	「主体的な確かな学びを求めて」
	<p>本研修主題の 3 年目、まとめの年になる。これまでの成果や課題をもとに学部間のつながりを意識して取り組んだ。</p> <p>1) 全体研修 …各部の研修の内容・方法・成果について全員で共通理解を図る。縦割りグループを作り、学部の取組の伝達、意見交換を行う。</p> <p>2) 学部研修 …各部のテーマに沿った研修を学部全員で研鑽。</p> <p>3) 講師招聘研修会 …各部のテーマに沿った助言者を招聘し、全体研修として全員で指導助言を受ける。</p> <p>4) 学部公開 …各部それぞれが 2 日間の公開期間(自由参観期間)を設定。参観者から感想・意見をもらい、学部研修に生かす。</p> <p>5) 外部研修 …関東豊教育研究会や県内特別支援学校の授業公開等に参加し、得た情報を指導実践・研究に生かす。関東豊学校研究会では、今年度は音楽科の主観校だったため、リモートでの発信をした。</p> <p>今年度も、全日豊研や県内聴覚特支の授業研もライブ配信やオンデマンド配信に</p>	<p>本研修主題の 1 年目、学部ごとの実情や課題に応じて研修を進めた。研修をとおして「情操豊かで自ら社会に参画しようとする人」に近づくことを目指し取り組んだ。</p> <p>1) 全体研修 …各部の研修の内容・方法・成果について全員で共通理解を図る。縦割りグループを作り、学部の取組の伝達、意見交換を行う。</p> <p>2) 学部研修 …各部のテーマに沿った研修を学部全員で研鑽。</p> <p>3) 講師招聘研修会 …各部のテーマに沿った助言者を招聘し、全体研修として全員で指導助言を受ける。</p> <p>4) 学部公開 …各部それぞれが 2 日間の公開期間(自由参観期間)を設定。参観者から感想・意見をもらい、学部研修に生かす。</p> <p>5) 外部研修 …関東豊教育研究会や県内特別支援学校の授業公開等に参加し、得た情報を指導実践・研究に生かす。関東豊学校研究会では、今年度は音楽科の主観校だったため、リモートでの発信をした。</p> <p>今年度も、全日豊研や県内聴覚特支の授業</p>

	<p>なったので、複数の教員が参加でき、研修機会を持つことができた。</p>	<p>研もライブ配信やオンデマンド配信になった学校もあったので、複数の教員が参加でき、研修機会を持つことができた。直接参加できる学校もあり、直接授業を見たり、他の教員と話をしたりする機会を持つこともできた。次年度は参加した研修会で学んだことや気づきを授業に授業にいかすことも確認できた。</p>
--	--	---

ア 幼稚部

	令和3年度	令和4年度
<p>研修 テーマ</p>	<p>豊かな言葉を育む授業づくり</p>	<p>一人一人の気持ちが動く授業づくり</p>
<p>評価</p>	<p>実績（成果）と課題</p>	<p>実績（成果）と課題</p>
	<p>授業研究やエピソード記録などで見られた子供たちの主体的な学びの姿や、そのための有効な手立てについて整理しまとめることでテーマに迫りたい。</p> <p>子供たちは、自分たちで遊びを選んだり遊び始めたりできた。年長児は遊びの中で子供同士でやり取りをしながら発展させていくようになった。教員は、子供たちの実態に合った遊びを考えて実践するようになった。</p> <p>子供が多様化してきており、歳児ごとのくりで考えたりまとめたりすることが難しくなってきた。個々の実態に応じた支援指導を考えるために、新版K式発達検査の実施を行っていききたい。</p>	<p>学習指導要領の幼稚部教育要領をもとに、現在の幼稚部の子ども達の育ちについて各々が考え、「幼稚部の終わりまでに育てほしい姿」を意識し、学部全体で子どもの姿を確認した。課題を挙げ、さらに子どもの力を引き出すためにどのようなアプローチが必要かを考えることができた。</p> <p>子どもの実態に応じて、質問-応答関係検査や新版K式発達検査を実施した。検査結果を分析し、現在持っている力と今後伸ばしていきたい力について学部で共有した。日々、幼児とのやり取りの中で、意識して関わるようにしたことで、やり取りが深まり、応答の力も伸びてきた。</p> <p>研究授業では、指導案の事前検討で、指導案を基に子ども達の実態、育ちについて確認し、題材や授業展開の工夫について意見を出し合った。事後研修では、子どもとのやり取りの場面を中心にビデオ分析を行い、子どもの主体的な姿を引き出すための言葉掛けや関わり方について学び合うことができた。</p> <p>研究授業で扱った遊びが学級のみならず、学年や異学年の幼児とも共有して一緒に楽しむことができた。遊びを通して、お互いへの関心も生まれ、子ども同士で教えたり、聞いたりする場面も見られ、やり取りにつながった。</p> <p>エピソード記録を取ることで、子どもの主体的な姿について、教員が指導の意図をもってやり取りをすることを心掛けるようになった。子どもが考えて答えるような場面をつくらうと意識することができた。</p> <p>指導案の形式について指導助言を受け、子どもの視点に立って評価基準の見直しを行</p>

		い、中心授業の評価の観点について話し合った。結論には至らなかったが、今回の中心授業の題材「宝さがし」を通して、幼児が主体的に活動に取り組む姿はどのようなものかを再確認し、次回の子ども主体の授業づくりに活かしていくことが確認できた。
--	--	---

イ 小学部

	令和3年度	令和4年度
研修テーマ	思考力を育てる授業づくり ～書く活動の工夫～	確実な『分かった』を目指して
評価	実績（成果）と課題	実績（成果）と課題
	<p>書く活動の環境について考えたり、教員が意識して授業に書く活動を取り入れたりすることができた。書く活動の環境を整えたことで児童の書く機会が増え、書くことへの抵抗感が減った。個人差や実態差はあるものの、自分の力で書いたり、まとめたりすることができるようになった。</p> <p>書くことは、話すこと・聞くこと・読むことの土台となっていて、「話す」「聞く」「読む」の言語活動を充実させる必要がある。教科間にとどまらず、経験や言語の視点でもつながりを意識できるように、学校残体で共通理解を図り、アプローチしていけると良い。</p>	<p>確実に分かる授業にするためには、今日のみあてを提示し、それに向かって発問を重ねながら児童の理解を深め、最終的にはめあてを達成することが大事であると確認した。これは、「授業づくりの基本」の4 授業構成＝発問構成にあるとおりである。</p> <p>今年度は、発問の工夫や児童が分かったかを評価することについては、学部としての考えを明確にできなかったもので、来年度はそれを中心に進めていきたい。</p>

ウ 中学部

	令和3年度	令和4年度
研修テーマ	主体的に考える生徒を育てる授業づくり	主体的に学び表現できる生徒を育てる授業づくり
評価	実績（成果）と課題	実績（成果）と課題
	<p>授業設計アイデアシートを活用することで、教員が「考える材料」を設定し、「対話と思考」で生徒がその材料を活用して自分自身や教員と対話をしながら思考を深め、主体的に課題を解決しようとする姿が見られた。授業の記録を取り、有効だった支援や手立てなどの意見交換を行い、教科横断的に指導の一貫性をもてた。</p> <p>言語指導や聴覚・発達面からは、研修を深めることはできなかったもので、教員の専門性の向上に努め、小学部で培った「読む・書く」の力を土台に研修を進めていく必要がある。</p>	<p>「授業設計アイデアシート」を活用することで一般的な指導案よりも授業の流れが分かりやすく「主体的・対話的で深い学び」の視点をもった授業を作ることができた。</p> <p>生徒に合った教材や掲示を工夫することで生徒が根拠に基づいて主体的に学ぶ姿が見られた。</p> <p>教員が別の考えを紹介したときに生徒が自分の考えに固執せず良い考えは取り入れようとする気持ちが出てきた。</p> <p>学部公開のアンケートなどから教員の「考えたり、自分で調べたりする時間」「既習の学習の確認をする時間」などを授業内で確保することが生徒の考えを整理し、まとめるこ</p>

		とにおいて有効であることがわかった。授業設計アイデアシートの活用と共に対話の場面でこれらのことを意図的に配置しておくことで、より生徒の思考を深めたり、予想や予測を広げたりすることができる考える。
--	--	---

エ 高等部

	令和3年度	令和4年度
研修テーマ	生徒の課題改善に迫る授業づくり	自己調整力が身に付く授業づくり
評価	実績（成果）と課題	実績（成果）と課題
	<p>教員間でキャリアの視点を共有したことで生徒を多面的に捉え、生徒の変容を共有することができた。教科指導の中で高めるべき基礎的汎用的能力は情報活用力や情報取得力を含む課題対応能力であると明確になった。「教科指導におけるキャリア教育の一覧表」「準ずる教育を行う聴覚特別支援学校高等部における情報取得力・情報活用力を高めるための手立て・アプローチ方法」を作成することで、授業づくりにおいて有効的な具体的な手立てを共通理解することができた。</p> <p>「自己理解・自己管理能力」、「キャリアプランニング能力」の基礎的汎用的能力は授業場面だけでなく、学校生活全体を通して意図的にキャリア発達を促す指導を推進する必要がある。</p>	<p>評価基準を設定して授業を行うことで、発問や板書などの授業設計や机間巡視などの支援に一貫性が生まれた。その結果、生徒にとって何をすれば良いかが明確になり、自ら学習に取り組む姿勢が見られるようになってきた。</p> <p>「聴覚障害を持つ生徒に対する配慮・適切な指導」の改善については、中心授業を年度初めに行ったことで配慮事項や授業におけるポイントなどが確認でき、日々の授業に生かすことができた。</p> <p>オンライン講座や講師招聘研修会を通して、生徒の実態を捉えながら授業全体を通して学習評価をしていく必要があるなど、指導と評価の一体化について教員間で共通理解することができた。また学習評価の参考事例集を作成することで、評価基準の考え方や実際の評価の在り方などを教員一人一人が確認し、実践することができた。</p>

オ 寄宿舎

	令和3年度	令和4年度
研修テーマ	目的意識を持って行動できる生徒を育てる支援の在り方	児童生徒の強みを生かす支援方法
評価	実績（成果）と課題	実績（成果）と課題
	<p>月ごとに面談を行うことで、1対1で話をする時間が取れ、個に合った支援につながった。自分自身を客観的にみることができるようになってきた。具体的な支援の方法やアイデアを出し合えた。</p> <p>月面談で本人と話し合いをする機会ではできたが、指導員間の共通理解をするには1か月後ではなく、半月くらいでの報告会が必要だった。学年の担当では、共通理解ができたが、指導員全体での共通理解まではできなかった。学年担当間での話し合いの</p>	<p>項目を設定した実態把握表により話し合いの観点が焦点化され、共通理解がしやすくなり、日常でも強みの視点の支援の話し合いが増えた。</p> <p>課題に注目していた所を強みの視点をもつことで、舎生のやる気や気持ちに寄り添った支援になってきた。また、児童生徒の強みに注目することで新たな見方を知り、視点を変えた支援を考えるようになった。</p> <p>一人一人の意見を引き出したり、児童生徒による話し合い場面を多く設定したり、</p>



	<p>他に研修日などを使い、全体での共通理解をし、同じ支援ができるようにしていきたい。</p>	<p>強みを生かす場面を設定したりするなど、指導員の関わりの工夫があった。児童生徒にとって寄宿舎が、自分の意見を出しやすい場、安心できる場として生活ができ、来年度の自治会活動へ児童生徒全員が見通しをもち、意欲を示すことができた。</p> <p>学習会で校外の支援の様子を知ることができた。なぜできるようになったかの検証が支援に活用できることが分かった。</p>
--	---	--

カ 地域支援

	令和3年度	令和4年度
<p>研修 テーマ</p>	<p>・通級生のコミュニケーション力を付けるための指導・支援 (通級指導教室) ・自分の思いを表現できる子を目指して (乳幼児教室)</p>	<p>・通級生のコミュニケーション力を付けるための指導・支援 (通級指導教室) ・自分の思いを表現できる子を目指して (乳幼児教室)</p>
<p>評価</p>	<p>実績 (成果) と課題</p>	<p>実績 (成果) と課題</p>
	<p><b>【通級教室】</b> 難聴理解授業で通級生の発想を取り入れることで、主体性を引き出せたり、在籍校の児童生徒の質問を受けたことで通級生自身の障害認識や自己理解につながったりした。 コミュニケーションを図りやすい環境作りは進んできているが、通級生自身が適切な声の大きさで話すようになるなどの変容を引き出せるような支援方法を探っていきたい。また、「もう一度行ってください」などの依頼できる力や自分のきこえについて他者に説明したり必要な配慮を自分から求めたりするような力も育んでいきたい。</p> <p><b>【乳幼児教室】</b> 昨年度の課題から話し掛けややり取りのスキルアップを目指し、気持ちを受け止め、どう代弁していくか、伝え方の工夫やビデオ分析を取り入れつつ進めた。 本来の遊び方や大人の意図とは異なる遊び方をしても否定せず受け止め、共感することで安心感や信頼感につながり、自分の思いを表現しようとすることを再確認できた。ここ数年子供の言語発達が言葉の発達段階表の目安どおりにできていない現状がある。言語発達を追って、記録し、関わり方を振り返っていきたい。</p>	<p><b>【通級教室】</b> 学習会を行ったことで、コミュニケーションストラテジーについて、学部内で理解を深めることができた。 エピソード記録を取ることで、どんなヒアリングストラテジーを多く使っているか、よく使っている通級生と、使っていない通級生に分かれること等、実態を知ることができた。 ヒアリングストラテジー表を作成したことで、3つの型による分け方 (自助型、要請型、自助・要請型)、またコミュニケーションスキルの段階 (繰り返し、聞き返し、確認) に沿って整理することができた。</p> <p><b>【乳幼児教室】</b> 実態把握のために家庭環境の諸調査を行ったが、今まで気づきにくかった生活日課を知ることができ、また家庭訪問でそれを確かめ生活リズムの改善を図ることができた。 「子どもと教員の関わり」及び「子どもと保護者の関わり」のビデオ分析を行ったことにより、大人の関わり方の良い点及び反省点について明らかにすることができ、関わりの改善につながり気持ちが伝わり合うことが増えた。松本先生からは「子ども、保護者が育っている」との助言をいただいた。今後も保護者と子どもの関わりの向上を目指したい。 1歳児の家庭訪問では、家庭の音環境支援 (調査と聞かせ方の支援) を行った。その成果として、子どもは音が聞こえると「聞こ</p>

		<p>えた」サインをして音源を探すあらわれが多く見られるようになり、保護者もそのあらわれを見逃さず積極的に音源を知らせ音のイメージ化を促す関わりがみられるようになった。2歳児の家庭訪問は、1回ないし、子どもによっては2回行った。1回目では、実態把握をし、主に生活支援、家族支援及び環境調査を行った。その成果として補聴器着脱時間や保管方法が安定したり、身辺自立の面でできることが増えたりした。母親が一人で悩まず皆で子どもを育てていく大切さに気付き、心に余裕をもって子どもと関わる時間が増えた。保護者自身が関わり方をはっきりとイメージ化でき、子どもの気持ちに寄り添ったり必要な言葉を待ったりと、関わり方に変化が見られた。</p>
--	--	--

<教員研修会・講演会の開催>

- ・職員の資質向上を図るため、研修会、講演会を開催  
(令和4年度)

区 分	令和4年度実施内容
新任初任者学習会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4.4.4 事務手続き及び校内環境（事務）</li> <li>・R4.4.5 きこえと補聴器（自立活動）</li> <li>・R4.4.7 防災機器（防災委員会）</li> <li>・R3.5.24 進路指導（進路指導課）</li> <li>*その他、初任者研修の一環として、各学部主事、進路・地域支援課長等による講話を実施。</li> </ul>
自立学習会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ別研修 年間3回／5月、7月、9月 (基礎、手話、発音、きこえと補聴手段)</li> <li>・R4.12.12 「補聴器について」(講師：エイド)</li> <li>・R4.11.25 難聴類似体験</li> </ul>
自立活動研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4.4.4 学部ごとのメディア研修</li> <li>・R4.4.27 全体研修会「本校のコミュニケーション手段について」 教員対象講習会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止</li> </ul>
保健体育課研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4.5.27 心肺蘇生法(普通救命講習Ⅱ)講習会</li> </ul>
講演会・講習会等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4.8.25 はごろも「夢」講演会 「聴覚障害教育の専門性と今後の課題」 信州大学教授 庄司和史先生</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4.4.15 人権研修(外部講師)</li> <li>・R4.6.23 交通安全講習会(外部講師)</li> <li>・職員健康講座(外部講師)は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止</li> </ul>

## 6 防災対策について

＜令和4年度＞

### (1) 学校・寄宿舎における訓練

聴覚障害幼児児童生徒の災害時（火事、地震等）における人的被害を最小限に抑え、安全な生活を送ることを目的に、様々な条件を設定（想定）した避難訓練・総合防災訓練及び寄宿舎防災訓練等を実施する。

音や声による警報や指示が伝わりにくいという特性を踏まえ、視覚情報も加えて、分かりやすく、かつ、確実に伝える方法を工夫して行う。教職員の主体的な動きや連携の向上を図る。

#### ア 避難学習・防災訓練

実施日	目的・内容
R4. 5. 11	第1回避難訓練（地震・津波） *地震発生時・津波警報発令時の避難経路を覚える（確認する）。（子供） *地震発生時の情報伝達の仕方・避難誘導の仕方について確認する。（教師）
R4. 6. 24	第2回避難訓練（火災・予告なし）休校のため教員のみで実施 *火災発生時の避難経路を覚える（確認する）。（子供） *火災発生時の情報伝達の仕方・避難誘導の仕方について確認する。（教師）
R4. 7. 26	第3避難訓練（地震、引き渡し） *東南海トラフ地震の臨時情報に基づき、体育館・遊戯室へ避難する。 *遊戯室での待機、引き渡しの仕方を知る。
R4. 11. 15	第4避難訓練（火災、消防署との連携） *火災発生時の対応、避難の仕方について消防署署員に助言をもらう。 *非常ベル、防火扉閉鎖時の避難方法を覚える。 *水消火器訓練（小・中）、Net119体験（高）、消防服（幼）

#### イ 防災・防犯研修・防災班会議（職員）

実施日	目的・内容
R4. 4. 7 防災機器説明会	*防災設備（防災扉、フラッシュライト等）の作動方法について研修。
R4. 4. 14 防災班会議Ⅰ	*各防災班の役割分担の確認、役割遂行における課題の洗い出しと対応を検討
R4. 7. 29 防災班会議Ⅱ	*各防災班の役割分担の確認、役割遂行における課題の洗い出しと対応を検討
R4. 6. 28 不審者対応訓練	*沼津署生活安全課の協力を得て、不審者が校内に侵入した際の対応について演習から問題点を洗い出し、適切な行動について助言してもらった。
R5. 2. 21 防災班会議Ⅲ	*次年度に向け、各防災班の役割・行動について、発災前の事前準備（減災）、発災時の役割行動に

## ウ 寄宿舍防災訓練

実施日	目的・内容
R4. 5. 10	火災発生時の避難方法及び一次・二次避難場所、整列・人数確認方法の確認
R4. 7. 4	自由時間に震度6の地震発生、その後大津波警報が発令された場合の避難方法の確認。
R4. 10. 19	予告なし火災訓練（火災）。起床前に出火した想定で避難方法を確認。
R4. 11. 9	予告なし防災訓練（富士山噴火起因の地震）。夜間自由時間に発災した想定で避難方法を確認。
R5. 2. 1	予告なし防犯訓練。知らないうちに不審者が寄宿舍に侵入した想定での避難誘導訓練。

### (2) 安全点検

防災責任区域を割り振り、毎月末日に安全点検を行い、危険箇所をチェックする。

チェック個所は、速やかに修理、補修を行う。

月1回、発電機の使用点検を行っている。

防災備品については、防災班ごと点検を行い、夏休みには防災トイレなどの実際に建てて使用方法を確認している。

### (3) 地域防災との連携

地域防災担当と連携を密にし、避難所運営、避難時の児童生徒の動き等を共通理解している。

R4. 4. 27 令和4年度第五地区東・西連合自治会自主防災会会議

R4. 8. 28 地域防災訓練

R4. 10. 18 防災教育推進のための連絡協議会

R4. 12. 4 沼津市地域防災訓練

沼津市危機管理課避難地指定のための看板設置

沼津市危機管理課避難地指定のための協議

倉庫の備品確認、マンホールトイレ確認、貯水槽確認、避難地ごみ置き場の確認等

## 7 学校開放について

地域に開かれた学校を目指し施設開放委員会を設置し、体育館、運動場、遊戯室等の施設を児童・生徒の活用がない場合に限り、登録団体及び周辺住民に開放した。

<令和3年度実績>

施設名	利用種目	利用日数	利用人数	利用者負担金 (電気料)
体育館	バレーボール、卓球	14日	224人	5,616円
運動場	グランドゴルフ、サッカー、子供会	16日	177人	0円
駐車場		0日	0人	0円
合計		30日	401人	5,616円

<令和4年度実績>

(令和5年2月28日現在)

施設名	利用種目	利用日数	利用人数	利用者負担金 (電気料)
体育館	バレーボール、卓球	49日	866人	20,153円
運動場	グランドゴルフ、サッカー、子供会	55日	478人	0円
駐車場	幼稚園運動会	1日	27人	0円
合計		105日	1,371人	20,153円

## 事務執行の根拠法令調

項 目	根拠法令
学校教育に関すること	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、第76条、第77条、第78条、第79条、第82条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 学校給食法（第1条、第2条、第3条、第4条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第1条、第2条、第3条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学支援委員会規則
学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第137条） 義務教育費国庫負担法（第2条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第23条、第27条） 学校図書館法（第3条、第4条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第1条、第2条、第3条、第4条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱 静岡県手数料徴収条例 静岡県立学校管理規則 静岡県教育委員会処務規程 静岡県教育委員会事務決裁規程 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱

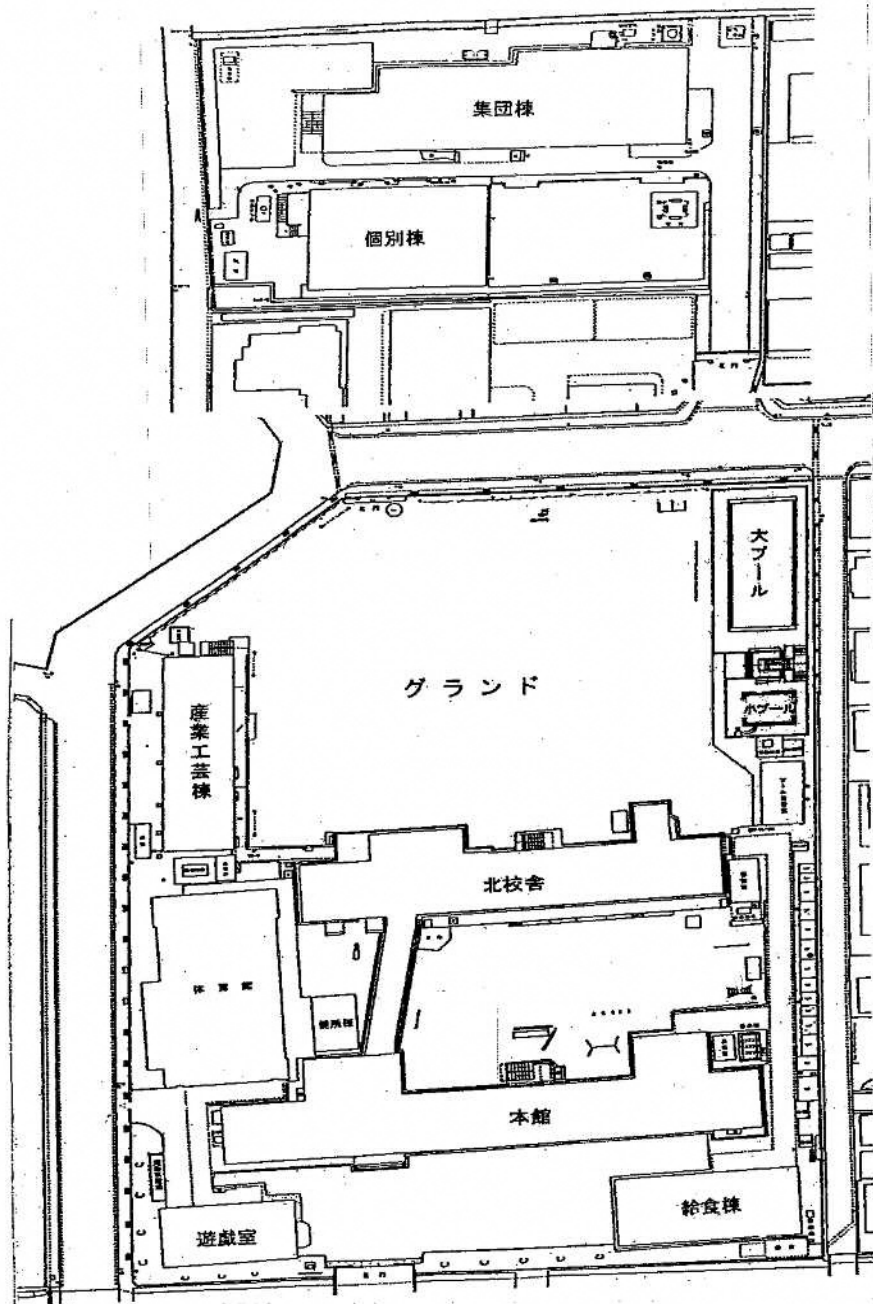
## 学 校 施 設 の 概 要

(令和5年2月28日現在)

### 1 面積及び所有区分

区 分	面 積	所 有 内 訳			摘 要
		県 有	国 有	P T A有	
学 校 敷 地	14,202.68 <sup>m<sup>2</sup></sup>	14,202.68 <sup>m<sup>2</sup></sup>	<sup>m<sup>2</sup></sup>	<sup>m<sup>2</sup></sup>	
内 訳	校 舎 敷 地	8,803.31	8,803.31		
	運 動 場 敷 地	2,502.99	2,502.99		
	寄 宿 舎 敷 地	2,896.38	2,896.38		
校 舎	建 1,762.16	建 1,762.16			
	延 5,140.34	延 5,140.34			
体 育 館	建 594.97	建 594.97			
	延 525.27	延 525.27			
そ の 他 の 建 物	建 990.61	建 980.89		建 9.72	
	延 995.35	延 985.63		延 9.72	
寄 宿 舎	建 845.04	建 845.04			
	延 1,827.54	延 1,827.54			
プ ー ル	484.71	484.71			大プール 20m*8m 小プール 8m*4.5m

2 配置・規模等  
 (1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等 (法面・演習林等を除く)

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	14,202.68㎡	5,140.34㎡	2,502.99㎡
県平均	18,817.67㎡	6,361.36㎡	5,247.28㎡



在 籍 生 徒 調 査

(令和5年2月28日現在)

学年	学部別		幼稚園			小学部			中学部			高等部			合計								
	区分	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	合計						
1年 (2歳)	入学者		5	2	7		1	3	4		0	0	0		16	2	0	2		8	5	13	
	増加				0				0				0					0			0	0	0
	減少				0				0				0					0			0	0	0
	現在		5	2	7		1	3	4		0	0	0		2	0	2			8	5	13	
2年 (3歳)	入学者		1	0	1		0	1	1		0	1	1		16	2	1	3		3	3	6	
	増加				0				0				0					0			0	0	0
	減少				0				0			1	1					0			0	1	1
	2年(3歳)時当初		1	0	1		0	1	1		0	0	0		2	1	3			3	2	5	
	増加				0				0				0					0			0	0	0
	減少				0				0				0					0			0	0	0
	現在		1	0	1		0	1	1		0	0	0		2	1	3			3	2	5	
3年 (4歳)	入学者		3	3	6		0	0	0		0	1	1		16	3	4	7		6	8	14	
	増加		1	1	2				0				0					0			1	1	2
	減少		1	1	2				0				0			1	1	1			2	1	3
	2年(3歳)時当初		3	3	6		0	0	0		0	1	1		2	2	4	6		5	8	13	
	増加				0				0				0					0			0	0	0
	減少				0				0				0					0			0	0	0
	2年(4歳)時当初		3	3	6		0	0	0		0	1	1		2	2	4	6		5	8	13	
	増加				0			0				0					0				0	0	0
	減少				0			0				0					0				0	0	0
	現在		3	3	6		0	0	0		0	1	1		48	6	5	11		16	15	31	
小	合計		9	5	14		1	4	5		0	1	1		48	6	5	11		16	15	31	

在 籍 生 徒 調

(令和5年2月28日現在)

学年	区分	学部別		幼稚園部		小学部		中学部		高等部		合計		
		男子	女子	定員	計	男子	女子	定員	計	男子	女子	定員	計	
4年 (5歳)	入学者	3	3	6	0	1	1					3	4	7
	増加		2	2			0					0	2	2
	減少	3	2	5			0					3	2	5
	2年(3歳)時当初	0	3	3		1	1					0	4	4
	増加		2	2			0					0	2	2
	減少			0			0					0	0	0
	3年(4歳)時当初	0	5	5		1	1					0	6	6
	増加			0			0					0	0	0
	減少		1	1			0					0	1	1
	4年(5歳)時当初	0	4	4		1	1					0	5	5
増加			0			1	1				0	1	1	
減少			0			0	0				0	0	0	
現在		0	4	4	0	2	2				0	6	6	
5年	入学者				2	1	3					2	1	3
	増加						0					0	0	0
	減少						0					0	0	0
	2年時当初				2	1	3					2	1	3
	増加						0					0	0	0
	減少						0					0	0	0
	3年時当初				2	1	3					2	1	3
	増加						0					0	0	0
	減少						0					0	0	0
	4年時当初				2	1	3					2	1	3
	増加						0					0	0	0
	減少						0					0	0	0
	5年時当初				2	1	3					2	1	3
	増加						0					0	0	0
	減少						0					0	0	0
現在				2	1	3					2	1	3	
小計		0	4	4	2	3	5				2	7	9	

調 査 生 徒 籍 在 生

(令和5年2月28日現在)

学年	学部別		幼稚園			小学部			中学部			高等部			合計			
	区分	人数	定員	男子	女子	定員	男子	女子	定員	男子	女子	定員	男子	女子	定員	男子	女子	合計
6年	人	学者		1	0	1										1	0	1
		増加				0										0	0	0
		減少				0										0	0	0
		2年時当初		1	0	1										1	0	1
		増加				0										0	0	0
		減少				0										0	0	0
		3年時当初		1	0	1										1	0	1
		増加				0										0	0	0
		減少				0										0	0	0
		4年時当初		1	0	1										1	0	1
		増加				0										0	0	0
		減少				0										0	0	0
		5年時当初		1	0	1										1	0	1
		増加				0										0	0	0
		減少				0										0	0	0
		6年時当初		1	0	1										1	0	1
		増加				0										0	0	0
		減少				0										0	0	0
		現在		1	0	1										1	0	1
	小	計		1	0	1										1	0	1
	合	計		4	7	11		0	1		48	6	5	11		19	22	41

在 籍 生 徒 調 (高等部学科別内訳)  
(令和5年2月28日現在)

学年	学科別		生産応用科		特進技能科		普通科		合 計			
	区 分	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子
1年	入学者	8	0	0	0	2	0	2	16	2	0	2
	増加				0	0				0	0	0
	減少				0	0				0	0	0
	現在		0	0	0	2				2	0	2
2年	入学者	8	0	0	0	3	1	3	16	2	1	3
	増加				0	0				0	0	0
	減少				0	0				0	0	0
	2年時当初		0	0	0	3	1	3		2	1	3
3年	入学者	8	1	4	5	2	0	2	16	3	4	7
	増加				0	0				0	0	0
	減少				0	0				1	0	0
	2年時当初		1	4	5	1	0	1		2	4	6
合計	入学者	24	1	4	5	5	1	6	48	6	5	11
	増加				0	0				0	0	0
	減少				0	0				0	0	0
	現在		1	4	5	1	0	1		2	4	6

# 入学志願者及び入学者数調

区分	元年度			2年度			3年度			4年度			5年度		
	本科		専攻科	本科		専攻科	本科		専攻科	本科		専攻科	本科		専攻科
	生産応用科	特進技能科		計	生産応用科		特進技能科	計		生産応用科	特進技能科		計	生産応用科	
生徒定員(A)	8	8	16	8	8	16	8	8	16	8	8	16	8	8	16
募集者数(B)	8	8	16	8	8	16	8	8	16	8	8	16	8	8	16
志願者数	1	1	2	1	2	3	0	2	2	0	2	2	0	0	0
	1	3	4	4	0	4	0	1	1	0	0	0	1	2	3
計(C)	2	4	6	5	2	7	0	3	3	0	2	2	1	2	3
受検者数	1	1	2	1	2	3	0	2	2	0	2	2	0	0	0
	1	3	4	4	0	4	0	1	1	0	0	0	1	2	3
計(D)	2	4	6	5	2	7	0	3	3	0	2	2	1	2	3
合格者数	1	1	2	1	2	3	0	2	2	0	2	2	0	0	0
	1	3	4	4	0	4	0	1	1	0	0	0	1	2	3
計(E)	2	4	6	5	2	7	0	3	3	0	2	2	1	2	3
志願倍率(C)/(B)	0.25	0.50	0.38	0.63	0.25	0.44	0.00	0.38	0.19	0.00	0.25	0.13	0.13	0.25	0.19
受検倍率(D)/(B)	0.25	0.50	0.38	0.63	0.25	0.44	0.00	0.38	0.19	0.00	0.25	0.13	0.13	0.25	0.19
入学者数	1	1	2	1	2	3	0	2	2	0	2	2	0	0	0
	1	3	4	4	0	4	0	1	1	0	0	0	1	2	3
計(F)	2	4	6	5	2	7	0	3	3	0	2	2	1	2	3
充足率(F)/(A)	0.25	0.50	0.38	0.63	0.25	0.44	0.00	0.38	0.19	0.00	0.25	0.13	0.13	0.25	0.19

## 卒業生の動向調

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部		1			1
その他高等学校等					
大学等	大学(学部)		1		1
	短期大学(本科)				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校(専門課程)			1		1
専修学校(一般課程)・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就 職			3		3
上 記 以 外 ※			1		1
不 詳 ・ 死 亡					
計 (卒業者総数)			6		6

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設			1		1
(うち就労系支援事業利用者)		( )	( 1 )	( )	( 1 )
医療機関					
計			1		1

## 生徒の状況

### 1 生徒の出身地域及び通学方法

#### (1) 出身地

(令和5年2月28日現在) (単位:人)

市町名	静岡市	伊東市	沼津市	三島市	富士宮市	長泉町	富士市	磐田市	小山町
生徒数	1	1	13	3	1	4	4	1	2
構成比%	2.6	2.6	33.3	7.7	2.6	10.3	10.3	2.6	5.1
市町名	藤枝市	掛川市	袋井市	裾野市	函南町	清水町	菊川市		
生徒数	1	1	1	3	1	1	1		
構成比%	2.6	2.6	2.6	7.7	2.6	2.6	2.6	0.0	0.0
市町名									合計
生徒数									39
構成比%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

#### (2) 通学方法

(令和5年2月28日現在) (単位:人)

区分	徒歩	自家用車	鉄道	バス	自転車
生徒数	13	21	3	1	1
構成比%	33.3	53.8	7.7	2.6	2.6
区分	自家用車 鉄道	自家用車 バス	鉄道 バス	自家用車 鉄道・バス	合計
生徒数	0	0	0	0	39
構成比%	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

### 2 部(クラブ)の加入状況

(令和5年2月28日現在) (単位:人)

区 分	中学部			高等部			合 計
	運動部	文化部	計	運動部	文化部	計	
部(クラブ)数	1	0	1	2	1	3	4
男 子	0	0	0	5	1	6	6
女 子	1	0	1	4	1	5	6
計	1	0	1	9	2	11	12
構成比%	100.0	0.0	100.0	81.8	18.2	100.0	100.0

## 3 障害別児童生徒数

(令和5年2月28日現在) (単位:人)

区 分		1年 (2歳)	2年 (3歳)	3年 (4歳)	4年 (5歳)	5年	6年	合 計	学級数
幼稚園部 合 計	単一障害	7	1	6	4	/	/	18	4
	-							0	0
	-							0	0
	合 計	7	1	6	4			18	4
小学部 合 計	単一障害	3	1		1	1	1	7	3
	重複障害	1			1	2		4	1
	肢体重複							0	0
	合 計	4	1	0	2	3	1	11	4
中学部 合 計	単一障害			1	/	/	/	1	1
	重複障害							0	0
	肢体重複							0	0
	合 計	0	0	1				1	1
高等部 合 計	単一障害	2	3	6	/	/	/	11	4
	重複障害							0	0
	肢体重複							0	0
	合 計	2	3	6				11	4

## 4 起因疾患別児童生徒数

(令和5年2月28日現在) (単位:人)

区 分	ワーデンブルク症候群	ゴールデンアー症候群	ベントレット症候群	骨形成不全	ソトス症候群	先天性サイトメガロ	不 明	計
幼稚園部							18	18
小学部							11	11
中学部							1	1
高等部							11	11
計	0	0	0	0	0	0	41	41



預 金 調

(令和5年2月28日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘要
スルガ銀行沼津セントラル支店	無利息型普通預金	2530700	沼津聴覚特別支援学校 資金前渡者 庄司 達夫	0円	給与等受領用
スルガ銀行沼津セントラル支店	無利息型普通預金	2530701	(自振口) 沼津聴覚特別支援学校 資金前渡者 庄司 達夫	0円	光熱水費、電話料、社会 保険料支払用
静岡銀行沼津駅北支店	無利息型普通預金	985602	沼津聴覚特別支援学校 就学奨励費 代理受領者 庄司 達夫	0円	就学奨励費受領用
残高合計				0円	

郵 券 等 受 払 調

(令和5年2月28日現在)

(単位:枚、円)

区 分	種 類	令和3年度						令和4年度						摘 要		
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出			差引現在高	
		枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額		枚数	金 額
有料道路 回数券等	修善寺道路 200円券	83		0		34		49		0		30		19		通級指導用
計		83		0		34		49		0		30		19		
郵便	レターパッ クプラス 520円	0	0	5	2,600	5	2,600	0	0	5	2,600	2	1,040	3	1,560	公文書郵送用
計		/	0	/	2,600	/	2,600	/	0	/	2,600	/	1,040	/	1,560	

## 材 料 品 受 払 調

(令和5年2月28日現在)

区分 品名	3年度						4年度						摘要			
	繰越		受入		払出		繰越		受入		払出			差引現在高		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額		数量	金額	
布	0	0	m 122.0	10,267	m 122.0	10,267	0	0	m 0	0	m 0	0	0	0	0	
計	/	0	/	10,267	/	10,267	/	0	/	0	/	0	/	0	0	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和2年度	令和3年度	左のうち、2年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		155,100	
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		1,094,918	
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費		17,439,305	
計					17,070,646	18,689,323	0
(14) 工事請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		1,826,000	
計					1,815,000	1,826,000	0
(16) 公有財産購入費						0	
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		380,050	
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		1,099,560	
計					3,266,840	1,479,610	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		35,760	
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		34,000	
計					20,000	69,760	0
(21) 補償、補填及び賠償金						0	
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和5年2月28日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、3年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	653,840	0
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費	14,581,101	0
計					15,234,941	0
(14) 工事請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	0
計					0	0
(16) 公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	990,550	0
計					990,550	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	44,000	0
計					44,000	0
(21) 補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0

委 託 料 に 関 す る 調

(令和3年度)

整理 番号	委託業務名 (事務関係)	受 託 者	当 初 設計金額 円	契約金額			契約 締結 方法	契 約 期 間	支 出 年月日	金 額 円	委託業務 の内容	摘 要
				当初額 円	変更 増減額 円	計 円						
1	自家用電気 工作物保安 管理業務	橋本電気管理事務 所	720,500	715,660	0	715,660	随契	3.4.1 ～ 4.3.31	3.5.28 3.6.29 3.7.29 3.8.30 3.9.29 3.10.28 3.11.29 3.12.24 4.1.28 4.2.25 4.3.30 4.4.28 小計	55,660 55,660 55,660 55,660 83,930 55,660 55,660 55,660 75,130 55,660 55,660 55,660 715,660	自家用電気工作物保安管理業務	随契1号 (少額) 沼津視覚特別支援学校 沼津特別支援学校
2	給食業務	シダックス大新東 ヒューマンサービス㈱ 静岡営業所  シダックス大新東 ヒューマンサービス㈱ 中部第二支店	51,274,300	50,688,000	0	50,688,000	一般	2.8.19 ～ 5.7.31	3.5.28 3.6.29 3.7.29 3.8.30 3.9.29 3.11.12 3.11.29 3.12.24 4.1.28 4.2.25 4.3.30 4.4.28 小計	(10,617,704) 1,431,082 1,431,082 1,431,082 1,431,082 1,431,082 1,431,082 1,431,082 1,431,082 1,431,082 1,431,082 1,431,082 17,172,984	学校給食及び寄宿舎食の調理・配膳業務	2長期
3	遊具安全点 検業務	(株)ホートクエクション	49,500	49,500	0	49,500	随契	3.8.2 ～ 3.9.30	3.9.10	49,500	遊具13点の安全点検業務	随契1号 (少額)
4	産業廃棄物 処理	三友水処理㈱	12.1	汚泥1kg 12.1	0	汚泥1kg 12.1	随契	3.8.2 ～ 3.9.3	3.9.9	71,874	学校・寄宿舎厨房グリスラップ槽汚泥引抜き、汚泥収集運搬業務	随契1号 (少額) 単価契約
5	産業廃棄物 処理	クリーンサービス㈱	22	汚泥1kg 22	0	汚泥1kg 22	随契	3.8.2 ～ 3.9.3	3.10.20	62,480	学校・寄宿舎厨房グリスラップ槽汚泥処分業務	随契1号 (少額) 単価契約
6	産業廃棄物 処理	三友水処理㈱	12.1	汚泥1kg 12.1	0	汚泥1kg 12.1	随契	3.12.24 ～ 4.1.31	4.1.20	71,027	学校・寄宿舎厨房グリスラップ槽汚泥引抜き、汚泥収集運搬業務	随契1号 (少額) 単価契約
7	産業廃棄物 処理	クリーンサービス㈱	22	汚泥1kg 22	0	汚泥1kg 22	随契	3.12.24 ～ 4.1.31	4.1.20	60,940	学校・寄宿舎厨房グリスラップ槽汚泥処分業務	随契1号 (少額) 単価契約
8	産業廃棄物 収集運搬処 分業務	(株)ホクセイ	52,822	52,822	0	52,822	随契	3.8.3 ～ 3.12.28	3.9.8	52,822	校内蛍光灯・水銀灯・電池収集運搬・処分業務	随契1号 (少額)
9	業務用冷凍 空調機器フロ ン漏えい点検 業務	菱友冷熱(株)	108,900	96,800	0	96,800	随契	3.11.15 ～ 4.3.31	3.12.13	96,800	業務用空調機器5台フロン漏えい点検業務	随契1号 (少額)
10	産業廃棄物 収集運搬業 務	日本産業廃棄物処 理(株)	33,000	33,000	0	33,000	随契	3.12.9 ～ 4.3.31	4.3.2	33,000	実習棟廃薬品収集運搬業務	随契1号 (少額)
11	産業廃棄物 処分業務	三光(株)	59,136	59,136	0	59,136	随契	3.12.9 ～ 4.3.31	4.3.11	59,136	実習棟廃薬品処分業務	随契1号 (少額)
12	混合廃棄物 収集運搬処 分業務	(株)東部処理	88,000	88,000	0	88,000	随契	4.1.21 ～ 4.3.31	4.4.8	88,000	校内不燃物収集運搬・処分業務	随契1号 (少額)
	事務関係計	12件								18,534,223		
1	(工事関係) アスベスト含 有調査業務	(株)エコアップ	305,800	176,000	△ 20,900	155,100	随契	4.2.9 ～ 4.3.28	4.4.8	155,100	管理棟配管保温材等、集団棟外壁建築用仕上げ塗材アスベスト含有調査業務	随契1号 (少額)
	工事関係計	1件								155,100		
	合 計	13件								18,689,323		

整理 番号	委託業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契約 期 間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘 要
				当初額	変更 増減額	計						
参考 1	警備業務委託	セコム㈱	円 8,316,000	円 0	円 8,316,000		1.10.1 ～ 6.9.30				機械警備業務	沼津東高校
2	消防用設備 等保守点検 業務	(株)藤興産	円 1,963,500	円 0	円 1,963,500		3.4.1 ～ 4.3.31				消防用設備機器 の保守点検	沼津工業高 校
3	可燃物収集 運搬処理業 務	(有)大真商会	運搬料 燃やすゴミ 1回 26,180円 プラスチック容 器 1回 26,180円 処分料 1kg 6.82円		運搬料 燃やすゴミ 1回 26,180円 プラスチック容 器 1回 26,180円 処分料 1kg 6.82円		3.4.9 ～ 4.3.31				一般廃棄物の収 集運搬・処分	沼津城北高 校
4	プール浄化 装置保守点 検業務	三友水処理(株)	円 171,600	円 0	円 171,600		3.4.14 ～ 3.11.30				プール浄化装置 保守点検	沼津西高 校
5	防鼠防虫業 務	㈱三島美装	円 234,300	円 0	円 234,300		3.4.16 ～ 4.3.31				厨房、食堂の防 鼠防虫業務	沼津視覚特 別支援学校
6	ガスヒートボ ンプエアコン 点検業務	菱友冷熱(株)	円 1,117,600	円 0	円 1,117,600		3.6.30 ～ 3.9.13				学校ガスヒートボ ンプエアコン点検 業務	沼津商業高 校
7	建築基準法 第12条に基 づく定期点検 業務	(有)一級建築士事務 所 アドス設計室	円 1,485,000	円 0	円 1,485,000		3.9.1 ～ 4.2.28				建築基準法12条 に係る定期点検 業務	沼津西高 校
	計	7件										

委 託 料 に 関 す る 調

(令和4年度)  
(令和5年2月28日現在)

整理 番号	委託業務名 (事務関係)	受 託 者	当 初 設計金額 円	契約金額			契約 締結 方法	契 約 期 間	支 出 年月日	金 額 円	委託業務 の内容	摘 要
				当初額 円	変更 増減額 円	計 円						
1	自家用電気 工作物保安 管理業務	橋本電気管理事務 所	720,500	715,660	0	715,660	随契	4. 4. 1 ～ 5. 3. 31	4.5.30 4.6.29 4.7.29 4.8.29 4.9.30 4.10.31 4.11.30 4.12.27 5.1.31 5.2.28	55,660 55,660 55,660 55,660 83,930 55,660 55,660 55,660 75,130 55,660	自家用電気工作物保安管理業務	随契1号 (少額)  沼津視覚特別支援学校 沼津特別支援学校
								小計		604,340		
2	給食業務	シダックス大新東 ヒューマンサービス㈱ 中部第二支店	51,274,300	50,688,000	0	50,688,000	一般	2. 8. 19 ～ 5. 7. 31	4.6.1 4.6.30 4.7.29 4.8.31 4.9.30 4.10.31 4.11.30 4.12.27 5.1.31 5.2.28	(27,790,688) 1,431,082 1,431,082 1,431,082 1,431,082 1,431,082 1,431,082 1,431,082 1,431,082 1,431,082	学校給食及び寄宿舎食の調理・配膳業務	2長期
								小計		14,310,820		
3	遊具安全点 検業務	(株)ホートクエクション	49,500	49,500	0	49,500	随契	4. 8. 1 ～ 4. 9. 30	4.10.7	49,500	遊具13点の安全点検業務	随契1号 (少額)
4	産業廃棄物 処理	三友水処理㈱	12.1	汚泥1kg 12.1	0	汚泥1kg 12.1	随契	4. 8. 1 ～ 4. 9. 5	4.8.31	73,975	学校・寄宿舎厨房グリスラップ槽汚泥引抜き、汚泥収集運搬業務	随契1号 (少額) 単価契約
5	産業廃棄物 処理	クリーンサービス㈱	22	汚泥1kg 22	0	汚泥1kg 22	随契	4. 8. 1 ～ 4. 9. 5	4.8.24	62,700	学校・寄宿舎厨房グリスラップ槽汚泥処分業務	随契1号 (少額) 単価契約
6	産業廃棄物 処理	三友水処理㈱	12.1	汚泥1kg 12.1	0	汚泥1kg 12.1	随契	4.12.23 ～ 5. 1. 31	5.1.24	72,886	学校・寄宿舎厨房グリスラップ槽汚泥引抜き、汚泥収集運搬業務	随契1号 (少額) 単価契約
7	産業廃棄物 処理	クリーンサービス㈱	22	汚泥1kg 22	0	汚泥1kg 22	随契	4.12.23 ～ 5. 1. 31	5.1.20	60,720	学校・寄宿舎厨房グリスラップ槽汚泥処分業務	随契1号 (少額) 単価契約
8	混合廃棄物 収集運搬処 分業務	(株)東部処理	88,000	88,000	0	88,000	随契	5. 2. 1 ～ 5. 3. 31			校内不燃物収集運搬・処分業務	随契1号 (少額)
	事務関係計	8件								15,234,941		
	合 計	8件								15,234,941		

整理 番号	委託業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契約 期 間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘 要
				当初額	変更 増減額	計						
参考 1	警備業務委託	セコム㈱	円 8,316,000	円 0	円 8,316,000		1.10.1 ～ 6.9.30				機械警備業務	沼津東高校
2	消防用設備 等保守点検 業務	(株)藤興産	円 3,300,000	円 0	円 3,300,000		4.4.1 ～ 5.3.31				消防用設備機器 の保守点検	沼津工業高 校
3	可燃物収集 運搬処理業 務	(有)大真商会	運搬料 燃やすゴミ 1回 26,180円 プラスチック容 器 1回 26,180円 処分料 1kg 6.82円		運搬料 燃やすゴミ 1回 26,180円 プラスチック容 器 1回 26,180円 処分料 1kg 6.82円		4.4.8 ～ 5.3.31				一般廃棄物の収 集運搬・処分	沼津城北高 校
4	プール浄化 装置保守点 検業務	三友水処理(株)	円 200,200	円 0	円 200,200		4.4.14 ～ 4.11.30				プール浄化装置 保守点検	沼津西高 校
5	防鼠防虫業 務	㈱三島美装	円 234,300	円 0	円 234,300		4.4.15 ～ 5.3.31				厨房、食堂の防 鼠防虫業務	沼津視覚特 別支援学校
6	ガスヒートボ ンプエアコン 点検業務	菱友冷熱(株)	円 1,449,800	円 0	円 1,449,800		4.7.1 ～ 4.9.30				学校ガスヒートボ ンプエアコン点検 業務	沼津商業高 校
7	建築基準法 第12条に基 づく定期点検 業務	(有)一級建築士事務 所 アドス設計室	円 1,485,000	円 0	円 1,485,000		4.8.26 ～ 4.12.16				建築基準法12条 に係る定期点検 業務	沼津西高 校
	計	7件										

負担金支出調

(令和3年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国聾学校教頭会会費	全国聾学校教頭会	全国聾学校教頭会会則	聴覚障害教育の振興を図るとともに会員の研修を図ることを目的とする。	4,000円	R3.7.9
2	全国聾学校長会会費	全国聾学校長会	全国聾学校長会規約	聴覚障害教育の振興並びに会員の研修・親睦を図ることを目的とする。	13,000円	R3.8.24
3	関東地区聾学校教頭会会費	関東地区聾学校教頭会	関東地区聾学校教頭会会則	綿密な協議により、校長補佐として適正円滑なる学校運営に協力し、関東地区聾教育の資質向上を図ることを目的とする。	2,000円	R3.9.10
4	関東地区聾学校長会会費	関東地区聾学校長会	関東地区聾学校長会規約	聴覚障害教育の振興並びに会員の資質の向上と相互の連携を図ることを目的とする。	5,000円	R3.12.1
5	子どもの体験型防犯講座「あぶトレ！」	静岡県くらし・環境部 県民生活局 くらし交通安全課長	実施要項	児童が体験型の防災講座に参加することにより、防災への関心を深めることを目的とする。	10,000円	R4.3.10
	計	5件			34,000円	



負担金支出調

(令和4年度)  
(令和5年2月28日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国聾学校教頭会会費	全国聾学校教頭会	全国聾学校教頭会会則	聴覚障害教育の振興を図るとともに会員の研修を図ることを目的とする。	4,000円	R4.6.30
2	全国聾学校長会会費	全国聾学校長会	全国聾学校長会規約	聴覚障害教育の振興並びに会員の研修・親睦を図ることを目的とする。	18,000円	R4.8.23
3	関東地区聾学校教頭会会費	関東地区聾学校教頭会	関東地区聾学校教頭会会則	綿密な協議により、校長補佐として適正円滑なる学校運営に協力し、関東地区聾教育の資質向上を図ることを目的とする。	2,000円	R4.9.15
4	全国聾学校長会研究協議会	全国聾学校長会研究協議会	開催要項	聴覚障害教育の推進に係る学校経営等について研修し、校長としての資質を高めるとともに、校長間の連携を図るための研究協議会。	3,000円	R4.10.4
5	聾学校等教職員に対する手話研修料	社会福祉法人全国手話研修センター	実施要項	聴覚障害児を指導する際に求められる心構えや基本的知識を習得し、また聴覚障害児とコミュニケーションができるよう技能等に関する研修を行い、聴覚障害教育を担当する教職員の養成を図る。	12,000円	R4.11.30
6	関東地区聾学校長会会費	関東地区聾学校長会	関東地区聾学校長会規約	聴覚障害教育の振興並びに会員の資質の向上と相互の連携を図ることを目的とする。	5,000円	R4.12.6
	計	6件			44,000円	

# 建築工事調

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	受注者	着手完成(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
					当初額	変更増減額	計							
1	教育 管理費	寄宿舎個別棟地下 タンク修繕工事	沼津市泉町	円 550,000	円 550,000	円 0	円 550,000	随契	(株)丸峯商会	4.2.17 4.3.31	円 550,000	寄宿舎個別棟A重 油地下タンク清 掃、廃止	—	随契1号(少額) 令達 4.2.9 支払 4.4.11
2	教育 管理費	換気扇移設工事	沼津市泉町	円 1,276,000	円 1,276,000	円 0	円 1,276,000	随契	古郡工業(株)	4.2.18 4.3.31	円 1,276,000	教室等換気扇移設	—	随契1号(少額) 令達 4.2.10 支払 4.4.8
		合 計	2件	円 1,826,000	円 1,826,000	円 0	円 1,826,000				円 1,826,000			

(令和3年度)

# 建築工事調

(令和4年度)

(令和5年2月28日現在)

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額 円	契約金額			契約締結方法	受注者	着手完成(予定)年月日	支出済額 円	工事概要	公有財産台帳	摘要
					当初額 円	変更増減額 円	計 円							
1	教育管理費	教室棟非常放送設備更新工事	沼津市泉町	1,815,000	1,078,000	0	1,078,000	随契	(株) 藤興産	4.12.26 5.3.24		教室棟非常放送設備更新	—	随契1号(少額) 令達 4.12.8 支払
		合計	1件	1,815,000	1,078,000	0	1,078,000				0			

《参考》

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額 円	契約金額			契約締結方法	受注者	着手完成(予定)年月日	支出済額 円	工事概要	公有財産台帳	摘要
					当初額 円	変更増減額 円	計 円							
1	教育管理費	令和4年度 〔第34-20346-01号〕 沼津艦管特別支援学校寄宿舎集団棟空調設備設置外工事	沼津市泉町	19,261,000	17,787,000	924,000	18,711,000	一般	(株) レイザン	4.10.28 5.3.10		寄宿舎集団棟空調設備設置外		交通機器部 沼津土木事務所
		合計	1件	19,261,000	17,787,000	924,000	18,711,000				0			

公 有 財 産 調

(令和3年度)

区 分	令和3年3月31日		増		減		令和4年3月31日		摘要
	現 在		数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	現 在		
	数量又 は面積	台 帳 価 格					数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 2,144,326		千円 0		千円 30,079		千円 2,114,247	
土 地	m <sup>2</sup> 14,202.68	1,822,898	m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup> 14,202.68	1,822,898	
立木竹	本 31	2,095	本		本		本 31	2,095	
建 物	m <sup>2</sup> 建 4,183.06 延 8,478.78	134,406	m <sup>2</sup> 建 _____ 延 _____		m <sup>2</sup> 建 _____ 延 _____	22,029	m <sup>2</sup> 建 4,183.06 延 8,478.78	112,377	
工作物	個 169	184,927	個		個 1	8,050	個 168	176,877	
公有財産 に準ずる もの		255		0		0		255	
電 話 加入権	件 6	255					件 6	255	

令和4年度中増減なし

公 有 財 産 調

(令和4年度)  
(令和5年2月28日現在)

区 分	令和4年3月31日		増		減		令和5年2月28日		摘要
	現 在		数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	現 在		
	数量又 は面積	台 帳 価 格					数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 2,144,326		千円 0		千円 0		千円 2,144,326	
土 地	m <sup>2</sup> 14,202.68	1,822,898	m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup> 14,202.68	1,822,898	
立木竹	本 31	2,095	本		本		本 31	2,095	
建 物	m <sup>2</sup> 建 4,183.06 延 8,478.78	112,377	m <sup>2</sup> 建 _____ 延 _____		m <sup>2</sup> 建 _____ 延 _____		m <sup>2</sup> 建 4,183.06 延 8,478.78	112,377	
工作物	個 169	176,877	個		個		個 177	187,354	
公有財産 に準ずる もの		255		0		0		255	
電 話 加入権	件 6	255					件 6	255	

## 借 地 借 家 等 調

(令和5年2月28日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量 又は 面積	借 料		契約期間	所有者又は 契約者氏名	用 途
				台帳	現況		単価	年額			
1	建物	雑屋 建	沼津市 泉 町 4-1	コンクリート ブロック造		m <sup>2</sup> 10.69 <hr/> 10.69	円	円  無償	30. 4. 1 ～ 5. 3. 31	沼津聴覚特別支援 学校PTA会長	教材収納庫
2	土地	河川 敷地	沼津市 泉 町 514-6 地先	普通 河川	普通 河川	53.35		免除	2. 4. 1 ～ 5. 3. 31	沼津市長	通行路
	計					64.04		0			

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和4年度)  
(令和5年2月28日現在)

区分	事業名又は契約名	内 容	契約額					
				2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
長期 継続 契約	電子複写機 賃貸借契約	複写機4台の賃貸借及び使用 (契約日 R2.4.1)	1,904,232	380,848	380,846	380,846	380,846	380,846
	給食業務委託	給食の調理・配膳業務 (契約日 R2.8.19)	50,688,000	10,617,704	17,172,984	17,172,984	5,724,328	

## 行政財産貸付・使用許可調

(令和5年2月28日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量 又は 面積	貸付料又は使用料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用許 可を受けた者の 氏名	貸付・使用 許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	沼津市 泉 町 4-1	学校 用地	学校 敷地	m <sup>2</sup> 10.69	円	円 免除	2. 4. 1 ～ 7. 3. 31	沼津聴覚特別支 援学校PTA会 長	教材収納庫設置
2	〃	〃	〃	〃	〃	10.34		〃	2. 4. 1 ～ 7. 3. 31	沼津市第五東地 区連合自治会長	自 治 会 防災倉庫設置
3	〃	〃	〃	〃	〃	0.82		〃	2. 4. 1 ～ 7. 3. 31	沼津市長	街路灯2本 歩道転落防止柵設置
4	〃	〃	〃	〃	〃	0.73		〃	2. 4. 1 ～ 7. 3. 31	〃	防災行政無線 放送塔設置
5	建物	事務所建	〃	鉄筋コンク リート3階		0.2		〃	2. 4. 1 ～ 7. 3. 31	〃	デジタル地域防災無線 機及び同報無線戸別受 信機設置
6	土地	学校敷地	〃	学校 用地	学校 敷地	本 1	1,500	1,500	2. 4. 1 ～ 7. 3. 31	西日本電信電話(株) 静岡支店長	支線1条
7	〃	〃	〃	〃	〃	3	1,500	10,500	2. 4. 1 ～ 7. 3. 31	東京電力パワー グリッド(株) 静岡総支社長	本柱1本 支線2条
			沼津市 泉 町 3-29	宅地	〃	4					本柱2本 支線2条
8	建物	事務所建	沼津市 泉 町 4-1	重量鉄骨造 トタン葺 2階		m <sup>2</sup> 4.0		免除	2. 4. 1 ～ 7. 3. 31	沼津市長	災害時支援物資備蓄品 置場
9	〃	〃	〃	鉄筋コンク リート3階		m <sup>2</sup> 0.05		免除	3. 11. 25 ～ 7. 3. 31	沼津市長	同報無線戸別受信機設 置
10	〃	〃	〃	重量鉄骨造 トタン葺 2階		m <sup>2</sup> 10.0		免除	5. 2. 1 ～ 7. 3. 31	沼津市長	災害時支援物資備蓄品 置場
11	土地	学校敷地	〃	学校 用地	学校 敷地	m <sup>2</sup> 1.76		免除	5. 2. 1 ～ 7. 3. 31	沼津市長	避難地案内看板・避難 地表示看板設置
合 計								12,000			



## 主要備品調

(令和5年2月28日現在)

整理 番号	区分		品名・規格	利用状況	購入 年月	購入金額
	大・中	小				
1	04-02	機能検査機器	機能検査機器 ME-170	幼児の聴力測定用として使用する。 年間200日使用	H23.3	円 3,150,000
2	04-02	機能検査機器	インピーダンスオージオメータ リオン RS-21	鼓膜の動きが正常であるかを検査 することにより、聴力低下の原因を 判断するために使用する。 年間200日使用	H7.2	1,957,000
3	01-13	その他の厨房器具	真空冷却機 MIURA JS-20QE	給食調理業務において食材を短時 間に冷却処理するために使用する。 年間200日使用	H25.9	1,648,500
4	01-13	食品食器洗浄機	食器洗浄機ジェットSD-66S シンク戸棚台付	寄宿舎調理業務に使用する。 年間200日使用	H9.3	1,411,100
5	01-13	調理器具	ガス調理機器 CSW-G101 ガス式 1/1 ホテルパン 10段	給食調理業務に使用する。 年間200日使用	H29.3	1,393,200
6	01-13	その他の厨房器具	その他の厨房機器 PSK-22W	給食調理、寄宿舎調理業務による生 ごみの処理に使用する。 年間200日使用	H23.3	1,328,250
7	04-01	耳鼻咽喉科用機器	補聴器特性測定装置 アフィニティコンパクト	デジタル補聴器の装用に必要なデ ータを取り個人の聴力に最適な補 聴器の調整をするために使用する。 年間200日使用	R2.9	1,210,000
8	02-01	パーソナルコンピュー ター (一式)	パーソナルコンピューター (一式) Endeavor MR8100	情報処理 (A教室) の授業で使用す る。 年間200日使用。	H31.3	1,188,000
9	01-13	調理器具	ガス調理機器 SSCG-06SCNU	舎食調理業務に使用する。 年間200日使用	H27.1	1,155,600
10	01-13	冷蔵(凍)庫	冷蔵(凍)庫 パススルー冷蔵庫 1200mm	給食調理業務に使用する。 年間200日使用	H15.10	1,110,900
11	01-13	食品食器洗浄機	食器洗浄機 中西 WX-12HW	給食調理業務に使用する。 年間200日使用	H5.1	1,102,100
12	02-01	パーソナルコンピュー ター (一式)	パーソナルコンピューター (一式) D582/G(10台)	情報処理 (B教室) の授業で使用す る。 年間200日使用。	H26.2	1,055,453
13	04-02	機能検査機器	オーディオメータ AA-76 スピーカー付	児童・生徒の聴力の状態を把握す るために使用する。 年間200日使用	H14.11	999,600
14	01-13	冷蔵(凍)庫	テーブル形冷蔵庫 (ホシザ キ製) RT210SDC-RC014	給食調理業務に使用する。 年間200日使用	H13.3	887,250
15	04-02	機能検査機器	機能検査機器 オーディオメータ AA-76	児童・生徒の聴力の状態を把握す るために使用する。 年間200日使用	H26.1	871,500
16	01-13	食品食器洗浄機	食器消毒保管機 中西 MCWK-20	給食調理業務に使用する。 年間200日使用	H11.3	861,000
17	01-13	冷蔵(凍)庫	冷蔵(凍)庫 パススルー冷蔵庫 750mm	給食調理業務において食材を短時 間に冷却処理するために使用する。 年間200日使用	H15.10	859,950
18	10-99	その他の教育器具	その他の教育器具 校旗	行事・式典で使用する。 年間10日使用	S55.11	750,000
19	02-02	放送装置	放送装置 ヒシエス移動用 PA CZ500	幼稚部の活動で使用する。 年間200日使用	H10.10	670,000
20	01-13	食品食器洗浄機	シャワーシンク 1700×1100×850mm	給食調理業務に使用する。 年間200日使用	H9.7	640,500

生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

品名(単位)		ポケットティッシュケース(個)				裏付巾着(大)(個)				エコバック(個)				
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	
数量(ア)		個				個				個				
受 高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	60	29	2	△ 31	20	18	2	△ 2	14	13	1	△ 1	
	計	60	29	2	△ 31	20	18	2	△ 2	14	13	1	△ 1	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払 高	売払数量	60	29	2	△ 31	20	18	2	△ 2	14	13	1	△ 1	
	売払金額	6,000	2,900	200	△ 3,100	5,000	4,500	500	△ 500	4,200	3,900	300	△ 300	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	60	29	2	△ 31	20	18	2	△ 2	14	13	1	△ 1	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														

生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

品名(単位)		カフェエプロン(個)				胸当て付きエプロン(個)				マスク(個)				
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	
区分	数量(ア)	個				個				個				
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	14	8	2	△6	14	8	2	△6	19	24	3	5	
	計	14	8	2	△6	14	8	2	△6	19	24	3	5	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払高	売払数量	14	8	2	△6	14	8	2	△6	19	24	3	5	
	売払金額	5,600	3,200	800	△2,400	8,400	4,800	1,200	△3,600	1,900	2,400	300	500	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	14	8	2	△6	14	8	2	△6	19	24	3	5	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														

生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

品名(単位)		三角巾(枚)				マスクケース(個)				ブックカバー(個)				
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	
区分	数量(ア)	枚				個				個				
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	8	9	1	1	0	13	2	13	0	2	0	2	
	計	8	9	1	1	0	13	2	13	0	2	0	2	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払高	売払数量	8	9	1	1	0	13	2	13	0	2	0	2	
	売払金額	800	900	100	100	0	1,950	300	1,950	0	300	0	300	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	8	9	1	1	0	13	2	13	0	2	0	2	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														

生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

品名(単位)		くつ袋(小)(個)				くつ袋(大)(個)				キーホルダー(個)				
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	
区分	数量(ア)	個				個				個				
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	3	0	3	0	4	0	4	0	0	37	0	
	計	0	3	0	3	0	4	0	4	0	0	37	0	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払高	売払数量	0	3	0	3	0	4	0	4	0	0	37	0	
	売払金額	0	600	0	600	0	1,000	0	1,000	0	0	5,550	0	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	3	0	3	0	4	0	4	0	0	37	0	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														

生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

品名(単位)		髪留め(個)				ミニデスク(個)				写真立て(個)				
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	
区分	数量(ア)	個				個				個				
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	0	5	0	3	0	0	△ 3	15	0	0	△ 15	
	計	0	0	5	0	3	0	0	△ 3	15	0	0	△ 15	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払高	売払数量	0	0	5	0	3	0	0	△ 3	15	0	0	△ 15	
	売払金額	0	0	750	0	900	0	0	△ 900	4,500	0	0	△ 4,500	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	5	0	3	0	0	△ 3	15	0	0	△ 15	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														

生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

品名(単位)		スマホスタンド (個)				木箱(小) (個)				キューブボックス (正方形・大) (個)				
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	
区分	数量(ア)	個				個				個				
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	23	0	0	△ 23	1	0	0	△ 1	1	0	0	△ 1	
	計	23	0	0	△ 23	1	0	0	△ 1	1	0	0	△ 1	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払高	売払数量	23	0	0	△ 23	1	0	0	△ 1	1	0	0	△ 1	
	売払金額	11,500	0	0	△ 11,500	200	0	0	△ 200	300	0	0	△ 300	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	23	0	0	△ 23	1	0	0	△ 1	1	0	0	△ 1	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														

生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

品名(単位)		キューブボックス (正方形・小) (個)				ペン立て(個)				ミニトマト(袋)				
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	
区分	数量(ア)	個				個				式				
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	2	0	0	△ 2	1	0	0	△ 1	6	14	2	8	
	計	2	0	0	△ 2	1	0	0	△ 1	6	14	2	8	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払高	売払数量	2	0	0	△ 2	1	0	0	△ 1	6	14	2	8	
	売払金額	200	0	0	△ 200	200	0	0	△ 200	600	1,400	200	800	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	2	0	0	△ 2	1	0	0	△ 1	6	14	2	8	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														



生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

品名(単位)		玉レタス(個)				白菜(個)				人参(袋)				
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	
数量(ア)		式				式				式				
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	6	0	6	0	8	0	8	0	6	0	6	
	計	0	6	0	6	0	8	0	8	0	6	0	6	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払高	売払数量	0	6	0	6	0	8	0	8	0	6	0	6	
	売払金額	0	300	0	300	0	800	0	800	0	600	0	600	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	6	0	6	0	8	0	8	0	6	0	6	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														

生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

品名(単位)		春菊(袋)				ラディッシュ(袋)				スイスチャード(袋)				
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	
数量(ア)		式				式				式				
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	10	13	10	5	3	0	△2	0	3	0	3	
	計	0	10	13	10	5	3	0	△2	0	3	0	3	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払高	売払数量	0	10	13	10	5	3	0	△2	0	3	0	3	
	売払金額	0	1,000	650	1,000	500	300	0	△200	0	300	0	300	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	10	13	10	5	3	0	△2	0	3	0	3	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														

生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

品名(単位)		ルッコラ(袋)				バジル(袋)				バジル苗(鉢)				
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	
数量(ア)		式				式				式				
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	26	7	11	△ 19	11	4	0	△ 7	36	8	20	△ 28	
	計	26	7	11	△ 19	11	4	0	△ 7	36	8	20	△ 28	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払高	売払数量	26	7	11	△ 19	11	4	0	△ 7	36	8	20	△ 28	
	売払金額	1,300	700	550	△ 600	1,100	400	0	△ 700	3,600	640	1,600	△ 2,960	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	26	7	11	△ 19	11	4	0	△ 7	36	8	20	△ 28	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														

生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

品名(単位)		ポップコーン(袋)				サニーレタス(袋)				芽キャベツ(袋)				
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	
数量(ア)		式				式				式				
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	20	11	10	△ 9	10	9	0	△ 1	12	0	2	△ 12	
	計	20	11	10	△ 9	10	9	0	△ 1	12	0	2	△ 12	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払高	売払数量	20	11	10	△ 9	10	9	0	△ 1	12	0	2	△ 12	
	売払金額	2,000	1,100	1,000	△ 900	1,000	900	0	△ 100	1,200	0	100	△ 1,200	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	20	11	10	△ 9	10	9	0	△ 1	12	0	2	△ 12	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														

生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

品名(単位)		芽キャベツ苗(鉢)				茎ブロッコリー(袋)				茎ブロッコリー苗(鉢)				
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	
数量(ア)		式				式				式				
受 高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	6	0	0	△ 6	25	2	0	△ 23	7	0	0	△ 7	
	計	6	0	0	△ 6	25	2	0	△ 23	7	0	0	△ 7	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払 高	売払数量	6	0	0	△ 6	25	2	0	△ 23	7	0	0	△ 7	
	売払金額	480	0	0	△ 480	2,500	200	0	△ 2,300	560	0	0	△ 560	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	6	0	0	△ 6	25	2	0	△ 23	7	0	0	△ 7	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														

生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

品名(単位)		バンジー苗(鉢)				バンジー寄せ植え(鉢)				ワイルドフラワー苗(鉢)				
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	
数量(ア)		式				式				式				
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	18	0	0	△ 18	2	0	0	△ 2	18	0	0	△ 18	
	計	18	0	0	△ 18	2	0	0	△ 2	18	0	0	△ 18	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払高	売払数量	18	0	0	△ 18	2	0	0	△ 2	18	0	0	△ 18	
	売払金額	1,440	0	0	△ 1,440	1,120	0	0	△ 1,120	1,440	0	0	△ 1,440	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	18	0	0	△ 18	2	0	0	△ 2	18	0	0	△ 18	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														

生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

品名(単位)		大根(本)				ナス(袋)				ししとう(袋)				
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	
数量(ア)		式				式				式				
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	20	20	16	0	0	8	0	8	0	4	0	4	
	計	20	20	16	0	0	8	0	8	0	4	0	4	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払高	売払数量	20	20	16	0	0	8	0	8	0	4	0	4	
	売払金額	2,000	2,000	1,600	0	0	800	0	800	0	400	0	400	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	20	20	16	0	0	8	0	8	0	4	0	4	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														

生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

区分		品名(単位)	枝豆(袋)				水菜(袋)				リーフレタス(個)			
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	
数量(ア)		式				式				式				
受 高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	3	0	3	0	20	0	20	0	0	14	0	
	計	0	3	0	3	0	20	0	20	0	0	14	0	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払 高	売払数量	0	3	0	3	0	20	0	20	0	0	14	0	
	売払金額	0	450	0	450	0	2,000	0	2,000	0	0	850	0	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	3	0	3	0	20	0	20	0	0	14	0	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														



生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

品名(単位)		パセリ苗(鉢)				ピオラ(株)				ピーマン(袋)				
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	
数量(ア)		式				式				式				
受 高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	0	3	0	0	0	22	0	0	0	5	0	
	計	0	0	3	0	0	0	22	0	0	0	5	0	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払 高	売払数量	0	0	3	0	0	0	22	0	0	0	5	0	
	売払金額	0	0	150	0	0	0	1,760	0	0	0	500	0	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	3	0	0	0	22	0	0	0	5	0	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														

生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

品名(単位)		ニンニク(袋)				パプリカ苗(鉢)				マリーゴールド苗(鉢)				
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	
数量(ア)		式				式				式				
受 高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	0	5	0	0	0	3	0	0	0	20	0	
	計	0	0	5	0	0	0	3	0	0	0	20	0	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払 高	売払数量	0	0	5	0	0	0	3	0	0	0	20	0	
	売払金額	0	0	500	0	0	0	240	0	0	0	1,600	0	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	5	0	0	0	3	0	0	0	20	0	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														

生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

品名(単位)		サルビア苗(鉢)				ハーバリウムボールペン(本)								
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現 在	差 b-a	
数量(ア)		式				本								
受 高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	0	20	0	0	0	35	0	0	0	0	0	
	計	0	0	20	0	0	0	35	0	0	0	20	0	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払 高	売払数量	0	0	20	0	0	0	35	0	0	0	0	0	
	売払金額	0	0	1,600	0	0	0	10,500	0	0	0	0	0	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	20	0	0	0	35	0	0	0	0	0	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														

生産物受払調

(令和5年2月28日現在)

区分		品名(単位)								計				
		2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	2年度 a	3年度 b	5年2月 28日現在	差 b-a	
数量(ア)														
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高(イ)	0	0	0	0	0	0	0	0	417	277	258	△ 140	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	417	277	258	△ 140	
単位数量(イ/ア)														
同前年比(%) (b-a)/a×100														
払高	売払数量	0	0	0	0	0	0	0	0	417	277	258	△ 140	
	売払金額	0	0	0	0	0	0	0	0	70,540	40,740	33,400	△ 29,800	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	417	277	258	△ 140	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要														

# 職 員 調

(令和5年4月1日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数 年 月 □. □	摘 要
1	校 長	庄 司 達 夫		□□□	□. □	□□□
2	教 頭	山 下 智 美		□□□	□. □	□□□
3	教 諭	廣 島 順 子	幼稚部	□□□	□. □	□□□
4	教 諭	木 村 恭 子	幼稚部	□□□	□. □	□□□
5	教 諭	船 津 真 由 美	小学部	□□□	□. □	□□□
6	教 諭	柿 島 光 美	小学部	□□□	□. □	□□□
7	教 諭	杉 本 雅 弘	高等部	□□□	□. □	□□□
8	教 諭	入 澤 知 登 世	高等部	□□□	□. □	□□□
9	教 諭	高 橋 登 士 子	中学部	□□□	□. □	□□□
10	教 諭	宮 城 徹 也	高等部	□□□	□. □	□□□
11	教 諭	内 藤 理 恵	幼稚部主事	□□□	□. □	□□□
12	教 諭	土 屋 真 衣 子	地域支援部 (コーディネーター)	□□□	□. □	□□□
13	教 諭	土 屋 玲 二	小学部	□□□	□. □	□□□
14	教 諭	木 村 ミ チ ル	小学部	□□□	□. □	□□□
15	教 諭	宮 林 友 美	中学部主事	□□□	□. □	□□□
16	教 諭	植 田 亮 子	地域支援部	□□□	□. □	□□□
17	教 諭	瀬 戸 悦 子	小学部	□□□	□. □	□□□
18	教 諭	杉 山 実	高等部	□□□	□. □	□□□
19	教 諭	荒 武 睦 美	高等部	□□□	□. □	□□□
20	教 諭	内 田 暁 之	高等部主事	□□□	□. □	□□□
21	教 諭	今 川 美 紀 子	小学部主事	□□□	□. □	□□□
22	教 諭	山 本 朋 子	高等部	□□□	□. □	□□□
23	教 諭	川 村 晶 子	中学部	□□□	□. □	□□□
24	教 諭	沖 出 淳	幼稚部	□□□	□. □	□□□
25	教 諭	江 崎 由 佳	高等部	□□□	□. □	□□□
26	教 諭	植 松 舞	小学部	□□□	□. □	□□□
27	教 諭	望 月 静 子	地域支援部	□□□	□. □	□□□
28	教 諭	平 松 俊 介	高等部	□□□	□. □	□□□
29	教 諭	小 山 卓 郎	高等部	□□□	□. □	□□□
30	教 諭	小 林 俊 介	高等部	□□□	□. □	□□□
31	教 諭	鈴 木 道 子	幼稚部	□□□	□. □	□□□
32	教 諭	井 村 奨 太	高等部	□□□	□. □	□□□
33	教 諭	原 山 玲	高等部	□□□	□. □	□□□

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数	摘 要
34	教 諭	坂 倉 舞 子	小学部	□□□	□. □ □□□	
35	教 諭	飯 塚 瑛 葉	幼稚部	□□□	□. □ □□□	
36	教 諭	小 林 美 咲	小学部	□□□	□. □ □□□	
37	教 諭	落 合 建 斗	小学部	□□□	□. □ □□□	
38	養 護 教 諭	中 田 萌 子	養護	□□□	□. □ □□□	
39	栄 養 教 諭	渡 邊 玲 菜	給食	□□□	□. □ □□□	
40	主 任 寄 宿 舎 員 指 導	大 橋 雅 之	寄 宿 舎	□□□	□. □	
41	主 任 寄 宿 舎 員 指 導	小 菅 裕 司	寄 宿 舎	□□□	□. □	
42	寄 宿 舎 員 指 導	土 屋 貴 子	寄 宿 舎	□□□	□. □ □□□	
43	寄 宿 舎 員 指 導	塚 本 浩 信	寄 宿 舎	□□□	□. □ □□□	
44	寄 宿 舎 員 指 導	飛 山 あ ゆ み	寄 宿 舎	□□□	□. □	
45	寄 宿 舎 員 指 導	中 村 友 美	寄 宿 舎	□□□	□. □	
46	事 務 長	岩 崎 紀 子		□□□	□. □ □□□	
47	主 査	山 本 学	会 計	□□□	□. □ □□□	
48	主 査	佐 藤 恵 美	施 設	□□□	□. □ □□□	
49	主 事	上 原 果 鈴	庶 務	□□□	□. □ □□□	
平均年数					□. □	

## 職員調（会計年度任用職員等）

（令和5年4月1日現在）

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭 (任期付)	今澤和子	地域支援部	□□□	年 月 □. □	□□□
2	教諭 (任期付)	松本由紀	地域支援部	□□□	□. □	□□□
3	教諭 (任期付)	鈴木由美	高等部	□□□	□. □	□□□
4	教諭 (臨時)	安本愛恵	高等部	□□□	□. □	□□□
5	教諭 (臨時)	牧田響太	小学部	□□□	□. □	□□□
6	実習助手 (臨時)	奥原昌子	高等部	□□□	□. □	□□□
7	寄宿舎指導員 (任期付)	伊藤一二三	寄宿舎	□□□	□. □	
8	寄宿舎指導員 (臨時)	池谷佳代子	寄宿舎	□□□	□. □	
9	寄宿舎指導員 (臨時)	保坂響綺	寄宿舎	□□□	□. □	
10	寄宿舎指導員 (臨時)	佐藤和正	寄宿舎	□□□	□. □	
11	寄宿舎指導員 (臨時)	南條千佳	寄宿舎	□□□	□. □	
12	会計年度任用職員 (非常勤講師)	大村幸司	高等部	□□□	□. □	□□□
13	会計年度任用職員 (非常勤講師)	山内雅之	高等部	□□□	□. □	□□□
14	会計年度任用職員 (非常勤嘱託員)	塩川富久	寄宿舎	□□□	□. □	
15	会計年度任用職員 (非常勤講師)	小澤祐子	高等部 中学部 小学部	□□□	□. □	□□□
16	看護師 会計年度任用職員 (非常勤講師)	山田みほ子	医療的ケア	□□□	□. □	□□□
17	会計年度任用職員 (非常勤労務職員)	山本浩喜	用務	□□□	□. □	
18	会計年度任用職員 (非常勤労務職員)	八代哲博	用務	□□□	□. □	
19	会計年度任用職員 (非常勤労務職員)	斉藤礼子	コロナ対策業 務スタッフ	□□□	□. □	
20	会計年度任用職員 (非常勤労務職員)	町田篤子	コロナ対策業 務スタッフ	□□□	□. □	
21	スクールカウンセラー	後藤隆章		□□□	□. □	
22	乳幼児発達支援指導員	滝本智子	地域支援部	□□□	□. □	□□□
23	学校医	岡田隆	内科	□□□	□. □	
24	学校医	穎川功	整形外科	□□□	□. □	
25	学校医	岩渕史郎	耳鼻科	□□□	□. □	
26	学校医	矢田清身	眼科	□□□	□. □	
27	学校歯科医	長谷川靖典	歯科	□□□	□. □	
28	薬剤師	瀬角梨恵		□□□	□. □	

## 職 員 の 年 齢 調

(令和5年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0	人
20歳以上30歳未満	7	
30歳以上40歳未満	8	
40歳以上50歳未満	14	
50歳以上56歳未満	9	
56歳以上61歳未満	7	再任用職員3人
61歳以上	4	再任用職員4人
計	49	平均年齢 45.5歳



## 健康管理

### 1 令和4年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 46人 職員数 47人
受 診 率	97.9%
県平均受診率	100%

(1) 未受診の理由

### 2 令和5年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0人
B 2		要経過観察	0人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってもよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	1(1)人
C 2		要経過観察	0人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	4(4)人
D 2		要経過観察	12(12)人
D 3		医 療 不 要	30(30)人
区 分 者 計			47(47)人
未区分者数			2(2)人
合 計			49(49)人

(1) 管理区分A～C2該当者  
に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休 人  
 イ 新規採用 人  
 ウ 自己都合による未受診 人  
 エ その他 人  
 ( )